

令和2年度  
杉並区立図書館運営状況報告書

令和3年2月

杉 並 区

# 目 次

I 杉並区立図書館の運営状況評価の実施について .....	1	<資料1>図書館別実績数値 .....	15
II 令和元年度の評価		杉並区立図書館全体の実績数値 .....	16
1 評価の目的 .....	2	図書サービスコーナー、 荻窪臨時図書窓口の実績数値 .....	16
2 対象 .....	2	杉並区立図書館(地域図書館)の実績数値 ..	17
3 実施方法 .....	2	各図書館別実績数値	
4 評価対象年度の総括的評価 .....	2	中央図書館 .....	17
5 評価項目(10項目)の評価 .....	5	永福図書館 .....	18
III 重点項目の評価		柿木図書館 .....	19
(1) 誰もが利用しやすい図書館に .....	9	高円寺図書館 .....	19
(2) 講座・講演会・行事の開催 .....	10	宮前図書館 .....	20
(3) 子ども読書活動の推進 .....	11	成田図書館 .....	21
IV 図書館協議会の評価 .....	13	西荻図書館 .....	21
		阿佐谷図書館 .....	22
		南荻窪図書館 .....	23
		下井草図書館 .....	23
		高井戸図書館 .....	24
		方南図書館 .....	25
		今川図書館 .....	25
		杉並区立図書館の概要 .....	26
		<資料2>項目別自己評価表 .....	27
		<資料3>利用者満足度調査	
		1 アンケート用紙の配布・回収数及び回答者の 状況 .....	48
		2 アンケート調査項目 .....	49
		3 項目別の回答割合 .....	50
		4 アンケート調査項目に対する自由意見 .....	51
		5 利用者満足度調査結果 .....	52
		○アンケート用紙 .....	56
		<資料4>杉並区立図書館サービス基本方針 ..	57

## I 杉並区立図書館の運営状況評価の実施について

---

杉並区立図書館では、平成 24 年度末に 10 年後の図書館像に向け「杉並区立図書館サービス基本方針」（以下「サービス基本方針」という。）を策定し、「学びの場」「知の共同体」「楽しい交流空間」の 3 つの視点と取組の方向を示している。

この運営状況評価は、「サービス基本方針」に基づく図書館サービスの成果や達成度を明らかにし、図書館運営の効率化及び図書館サービスの向上を図るとともに、その結果を区民に公表することで図書館運営の透明性を高めるために実施してきた。

実施方法は、まず図書館が自己評価を行い、図書館協議会の評価部会が図書館の自己評価、実績、利用者満足度調査を踏まえて評価を行っている。

令和元年度からは、各年度の運営状況評価に加えて、「サービス基本方針」を踏まえて設定した 10 項目の評価項目を、平成 25 年度からの取組について毎年 3、4 項目を目途に評価することとした。3 年をかけて計画的に振り返りの評価を行い、次期「サービス基本方針」の策定時に活用することを目指している。

そこで本年度は、令和元年度の事業について評価を行うとともに、重点項目として「誰もが利用しやすい図書館に」「講座・講演会・行事の開催」「子ども読書活動の推進」について平成 25 年度からの評価を行った。令和元年度は、大規模改修工事のため中央図書館を休館するとともに、南荻窪図書館も 2 か月の工事休館を行った。さらに、新型コロナウイルス感染症予防対策として、3 月には全館休館も行っている。したがって、事業実績数値をそのまま前年度と比較することは難しいため、内容についての評価を中心に行った。なお、対象事業年度の翌年 5 月に実施することが多い利用者満足度調査は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令された影響により、令和 2 年 10 月に実施している。

また、前回まで、直営（中央図書館は一部業務委託）、業務委託（館長のみ区職員）、指定管理者と運営形態別に比較検討を実施してきた。しかし、昨年度の図書館協議会からの意見を受け、今回の評価では運営形態別の評価は行っていない。

なお、図書館協議会からの評価については、意見・提言と合わせて「IV 図書館協議会の評価」に掲載した。

## II 令和元年度の評価

---

### 1 評価の目的

- 図書館サービスの成果や達成度を明らかにし、効率的・効果的な図書館運営を実現することにより、創意工夫による特色ある図書館づくりを図る。
- 経営評価プロセスへの区民参画と運営状況評価結果の公表により、図書館運営における客観性・透明性の向上を図る。

### 2 対象

- 杉並区立図書館 13 館の事業（令和元年度）  
改修工事のため休館していた中央図書館については、休館中の継続事業を対象とした。
- 「図書館サービス基本方針」を踏まえて作成した 10 の評価項目のうち、今年度の重点項目である「誰もが利用しやすい図書館に」「講座・講演会・行事の開催」「子ども読書活動の推進」に関する事業（平成 25 年度～令和元年度）

### 3 実施方法

#### (1) 図書館の自己評価

「サービス基本方針」を踏まえ、令和元年度の杉並区立図書館の取組状況について、各館の実績数値及び項目別自己評価表（資料 1、2）に基づき、「評価対象年度の総括的評価」及び「評価項目（10 項目）の評価」を行う。

#### (2) 利用者満足度調査

利用者に対し、アンケートにより満足度調査を行う。

#### (3) 図書館協議会の評価

図書館による評価、実績数値、利用者満足度調査をもとに、図書館協議会評価部会が評価を行う。

### 4 評価対象年度の総括的評価

#### (1) 蔵書の状況

令和元年度の購入冊数は、中央図書館が休館中利用者からの購入希望資料や定期刊行物、実用書等を購入しなかったこと等から、83,960 冊、前年度の 85.2%となった。また、蔵書規模の適正化により除籍を進めた結果、令和元年度の蔵書冊数（令和 2 年 3 月末現在）は 2,118,447 冊と前年度の 97.9%となった。

蔵書の新鮮度<sup>\*</sup>については、地域図書館全体の開架冊数 1,146,171 冊に対し購入冊数は 75,057 冊で 6.5%となり、前年度の 6.9%を下回った。各館別にみると、7%台の館が 3 館あり、最も高いのは下井草図書館の 7.6%であった。

<sup>\*</sup>蔵書の新鮮度…開架冊数のうち新規購入冊数の割合。

#### (2) 図書館活動

##### ① 中央図書館

令和元年度は、大規模改修工事のため 4 月から休館し、7 月末には済美教育センター内仮設事務所へ引越を行った。

蔵書については、民間倉庫へ移管するとともに、一般開架部分の資料や学校向け調べ学習

資料、参考図書、杉並資料の一部を高井戸図書館の保存書庫に移して、予約取寄せによる他館での貸出を行った。

また、ホームページ上でのレファレンス受付、学校への調べ学習資料の貸出、子ども読書活動推進に関するコンクール事業、障害者サービスは継続して行った。実績数値（資料1）には、継続したサービス及び馬橋ふれあい図書室の実績を合わせて示している。

なお、中央図書館の代替サービスとして設置した荻窪臨時図書窓口の実績は、貸出冊数80,619冊、貸出人数29,729人であった。評価の対象外としているが、サービスコーナー全体の実績を前年度と比較すると、貸出冊数は341,240冊から401,768冊（117.7%）、貸出人数は127,645人から149,174人（116.9%）といずれも増加しており、休館の影響が表れている。

## ② 地域図書館

地域図書館の開館日数は、長期休館の南荻窪図書館を除くと1館平均310日、全館合計では3,711日で、前年度より279日少ない。そのため、地域図書館全体での実績を前年度と比較すると、入館者数は97.6%、新規登録者数は94.2%、年間貸出冊数は99.2%となった。一方、開館日1日当たりの入館者数は626.2人で、前年度の596.9人よりも増加している。同様に、開館日1日当たりの貸出冊数は、1002.9冊で前年度の940.1冊より増えている。これは中央図書館の利用者が地域図書館の利用に移ったためと考えられる。特に、中央図書館に比較的近い成田図書館、阿佐谷図書館、南荻窪図書館の貸出は大きく増加している。

また、行事等についても実績は前年度を下回っているが、事業内容について各館の取組結果（資料2）をみると、新規事業を含め多彩な事業を行っている。

## （3）経費（コスト）

全館の経費を見ると、貸出1冊当たり435.2円、利用者1人当たり697.1円となり、前年度と比較すると109.9%、114.2%と増加している。これは、中央図書館の休館等により全体の年間貸出冊数や入館者数が減少したことと、令和元年10月の消費税率の変更が原因として考えられる。また、地域図書館全体の平均をみると、貸出1冊当たり344.8円、利用者1人当たり552.2円で、前年度と比較すると104.3%、106.1%となり、こちらも増加している。前項で示した開館日数の減による実績数値減が原因と考えられる。

## （4）利用者満足度調査に基づく評価

例年は5月（平成30年度中央図書館は1月）に行っているが、令和2年5月は国の緊急事態宣言に伴い全館休館していたこと、9月に中央図書館が改修工事を終えて開館したことから、10月に全館で実施した。中央図書館については、改修後の満足度を表すものとなっていることから、令和元年度の評価としては、地域図書館分のみとした（以下、この項目では「全館」は地域図書館全館をいう）。配布数は300枚以上、回収数200枚以上とし、各館の回収数をできるだけ揃えるようにした。その結果、回収数は中央図書館が413、地域図書館はそれぞれ200から300の間となった。

### ① 項目別評価

- ・各項目について「満足」「やや満足」を合わせた回答率をみると（資料3）、前年度よりも上回っているところが多い。
- ・「職員の対応」は、前年同様全館で高い満足度となっており、「満足」「やや満足」を合わせた回答率は全館90%を超え、宮前図書館では100%となっている。
- ・蔵書についての項目では、「借りたい本はそろっているか」で「満足」「やや満足」を合わせた回答率が前年度を上回った館が8館あり、その全館平均は76.4%となった。「新聞・雑誌など閲覧用資料」については、「満足」「やや満足」を合わせた回答率の全館平均が80.1%で

あった。また、「書架・資料の状態」は、「満足」「やや満足」を合わせた回答率が前年度を上回った館が8館、その全館平均が88.4%となり、満足度が高い結果となった。

- ・「館内施設の利用しやすさ」は、全館ほとんどで「満足」「やや満足」を合わせた回答率が上昇し、全館平均は94.2%となった。老朽化した施設が多い中、館内表示の見直しや修繕等により、改善した成果が出たと考えられる。
- ・図書館サービスについての項目では、「予約・リクエスト」「館内表示」で「満足」「やや満足」を合わせた回答率が約70%から80%となり、前年度を上回っている館が多かった。「予約・リクエスト」は「知っているが利用なし」10.5%、「知らなかった」0.6%と、サービスの認知度は高い。
- ・「レファレンス」は、「知っているが利用なし」51.4%、「知らなかった」3.7%と、知らない人の割合は低いが半数が利用していないことになる。「利用した」人の数を出すと、「満足」「やや満足」の割合は93.7%となり、サービスの満足度は高いことがわかる。より気軽に利用してもらうための工夫や取組が必要である。
- ・「行事」についての満足度は、「満足」「やや満足」を合わせた回答率は前年度と比べて8%以上高くなった館から9%以上低下した館まで増減のばらつきが大きくなっている。また、「知っているが利用なし」は53.3%と半数を超えているが、前年度の54.6%とあまり変わりがないことから、開催日時の見直しや様々な年代に向けたより魅力ある行事を企画・実施していく必要がある。
- ・「資料のリユース」の項目は、全体で約50%台となり前年度との変化はあまり見られなかった。「知らなかった」人の割合が、前年度の4.6%から5.9%へと増加しているが、感染症拡大により一時期リユース本の提供を控えていたことによると考えられる。
- ・「OPAC等による図書の検索」については、「満足」「やや満足」を合わせた回答率が前年度を上回った館が多く、全体では71.8%であった。しかし、「知っているが利用なし」が全体の20.1%であり、利用方法についての講座を行う等の取組も行っていく必要がある。
- ・「パソコンの利用」についても、「満足」「やや満足」を合わせた回答率が前年度を上回った館が多かった。しかし、「知っているが利用なし」は50.7%と回答数が最も多かった。地域図書館では持ち込みパソコンを利用できる場所が少ない上、設置パソコン（インターネットと外部データベースの使用ができる）も2台と、利用したくてもできない、設置パソコンの場合はデータベースの提供について知らない、といったことが原因として考えられる。改修、改築時の環境整備やデータベース利用のPR等を行っていく必要がある。
- ・「情報発信・PR」では、ほとんどの館で「満足」「やや満足」を合わせた回答率が前年度を上回った。しかし、全館平均で61.7%と満足度が高い館でも70%を下回っていることから、さらに多様な媒体や手法についての検討や実施を進めていくことが求められる。

## ② 自由記入欄での意見

自由記入欄に記入があったのは、地域図書館全館では899枚で回収数の28.0%であった。

最も多かったのは、蔵書に関する意見で、資料の充実への要望が多い。職員の対応についても多く寄せられており、そのうち肯定的な意見が67.7%、要望が29.1%であった。

施設についての意見では、地域図書館では老朽化が進んでいる館での要望が多くあった。感染症予防対策を行っている中での調査だったこともあり、閲覧席が足りないことへの要望が多かった。この他、図書館の検索システムやリクエストサービスについての要望も多かった。

なお、感染症予防対策として休館を行ったことでの苦情はなく、逆に感謝の言葉が多く寄せられた。各館で自由意見を受け止め、できることから早期改善を図っていくことが重要である。

### ③ 中央図書館改修への評価

今回の調査は、地域図書館については令和元年度の成果を表すものであるが、中央図書館の場合は、大規模改修後の図書館についての評価となる。

改修後の施設については、「館内施設の利用しやすさ」で「満足」の回答率が71.9%となり、評価が高い結果となった。また、閲覧席を増やし、机に電源を付けたためパソコンの持ち込み利用がしやすくなったことから、「パソコンの利用」は前年度の37.8%から54.3%と大きく満足度が上がっている。

自由意見は、44.0%の人が記入しており、施設への要望や意見が24.9%と最も多く、そのうち肯定的な意見と要望が約半数ずつであった。

開館後1か月に行った調査であり、施設・設備面での改修の成果が満足度に表れたといえる。

### (5) まとめ

令和元年度は、中央図書館が利用者への直接サービスを行っていなかったこと、南荻窪図書館の2か月の工事休館があったこと、新型コロナウイルス感染症対策としての行事の休止や全館休館があったことから、十分な図書館活動を行うことができなかった。

その中でも、各地域図書館が前年度に引き続き着実に図書館活動を実施し、結果として利用者満足度調査での満足度が向上した項目も多かったことは評価できる。特に、蔵書規模の適正化を行ったことで開架部分の整理が進み、使いやすく本が探しやすい棚づくりにつなげることができた。

令和元年度からの新たな課題である、感染症予防対策を行いながらどのように図書館活動を充実していくかについては、他自治体の例も参考にして、これまでの方法や内容にとらわれず新たな事業のあり方を検討する必要がある。

## 5 評価項目（10項目）の評価

### (1) 資料の充実

資料収集については、分担収集として各館に図書の種類に基づく主題分野を割り振り、収集すべき資料をもれなく購入するよう努めている。また、地域の課題解決に向けて、子育て支援や就業支援、緑化推進といったテーマを決めて、資料収集や特集展示を実施している。

令和元年度の取り組みをみると、分担収集分野の本の収集に力を入れたり、児童書等内容が古くなった分野の買い替えを行ったりしている。除籍を進めながらも、内容の新しいものや不足している分野の本を購入し、書架の本の更新をすることでバランスのよい棚づくりに努めている。今後は、資料の除籍を進めるだけでなく、不足している分野の資料を増やしていく等、各館で蔵書構成を見直す必要がある。

資料のデジタルアーカイブ化<sup>※</sup>については、杉並区の地図を中心に行った。かなり古い年代のものも多く利用も多いことから、デジタル化により資料の保存や今後の公開にも役立つものである。

※デジタルアーカイブ化…保存を目的に、区で発行した資料についてデジタル化（画像データ化）すること。

### (2) 誰もが利用しやすい図書館に

中央図書館の改修工事に伴い、椅子や書架等を地域図書館で再利用することで、古くなったものの入れ替えや椅子の増設を行うことができた。また、利用者の動線にあわせて書架の配置換えを行った館があった。

中央図書館の休館対応としては、荻窪臨時図書窓口を設置するとともに、国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供を宮前、方南図書館で開始した。

利用案内では、問合せの多い内容についての資料（予約資料通知メールの設定の方法、館内の室温設定、イベント情報）や周辺の地図を作成したり、図書館からの案内の色を統一し、目立たせたりする等の取組みを行い、案内サービスの向上を図った。

バリアフリー化については、誰でもトイレへの温水洗浄便座の設置や、「杉並区障害者週間」に点字本、大活字本だけでなく、読書補助具の展示を行った。

利用者満足度調査の「館内施設の利用しやすさ」は、11館で「満足」「やや満足」を合わせた回答率が前年度の値を上回り、各館での取組の成果と考えられる。

利用者の目線で見直すことにより、すぐにできることから進めていくとともに、施設の老朽化が進んでいる図書館が多いことから、今後の改修・改築工事の際に課題を解決していく。

### （3）レファレンス（調べもの相談）の充実

レファレンス件数は、成田、阿佐谷、方南図書館で増加しているが、成田、阿佐谷図書館は中央図書館休館による利用者増が要因であると考えられる。3月には新型コロナウイルス感染症対策としての休館があったことを考慮しても、全体的には減となった。

レファレンスサービスの利用促進のため、カウンターの設置、担当職員のバッジ着用や、学校の夏季休業中に、児童向け「図書館ガイド窓口」の設置を行った館がある。また、小学生向けの「図書館ツアー」で利用ガイダンスを行った館があった。

職員のスキルアップについては、中央図書館主催のレファレンス研修で、レファレンスインタビューについて講義と演習を行い、その後受講者は各館で職場内研修を行った。この他各館では、外部研修参加者による報告や地域史、情報検索スキル等についての研修を行った。

### （4）講座・講演会・行事の開催

中央図書館の休館、新型コロナウイルス感染症対策としての行事の中止や休館により、実績は前年度よりも少なくなった。

各館の内容を見ると、地域住民や団体、機関との連携が進んでいる。例えば、平和に関する行事として区内の被爆者等による語りの会や資料展示を行ったり、地域の団体との協働による講座や落語公演会を行ったりする例がみられた。今川図書館では、異文化交流をテーマに、地域にある東京女子大学と連携して「留学生による絵本の読み聞かせ」を実施した。

また、文学に関する講座だけでなく、科学あそび教室やヨガ講座、工作会、コーヒーの淹れ方講座等、幅広い内容の講座を実施することで、図書館未利用者が来館するきっかけにつながった。

対象についても、子どもから大人まで幅広い年齢として、落語や紙芝居、しおり作り等を多世代が一緒に楽しめるような企画も行われるようになった。

今後の行事については、感染症予防対策を基本とするため、対象人数の制限等による工夫が必要となる。このような状況で逆に図書館の行事へのニーズは高まっていることから、新しい形の行事を企画していく必要がある。

### （5）ボランティアとの協働

令和元年度も、ボランティアとの協働により様々な事業が行われた。

ボランティアとの連絡会や懇談会も各館で行われ、その結果、ボランティアと職員によるおはなし会や、2団体合同の「大きなおはなし会」、「グループ読書会」「おはなし会リレー」等、各団体の発表の場の提供につながった。



また、子ども向けに行っていたおはなし会等を大人向けにも開催したり、0～2歳児対象に行っていた事業を2～3歳児対象にも実施したりする等、活動を発展させることができた。高井戸図書館では、地域の方の発表の場としてのミニギャラリーを充実させ、発表者と利用者の交流も図っている。

さらに障害者サービスの分野では、録音図書の作成等に多くのボランティアが携わり、各々が技術向上のため研鑽を積んでいる。

今後は、ボランティアが安心して活動を続けられるよう、感染症対策を十分に行う等の準備や配慮が必要である。

## (6) 快適な読書空間の整備

館内での閲覧スペース拡充の要望に応じて、行事がないときに多目的ホールを閲覧スペースとして通年開放したり、読書室以外の場所の椅子を増設したりすることにより、読書環境の整備に努めた。

館内の温度や湿度についても、老朽化している空調機の工事を行うとともに、温湿度計を設置して管理を行っている。また、照明のLED化により、館内を明るくするといった設備面だけでなく、館内の装飾で季節感を出す等の工夫により、快適な空間の整備を進めた。館内巡回についても各館で強化を図り、安全に安心して利用できるよう、配慮している。

温度や湿度の管理はもちろん、居心地の良さや雰囲気作り等についても、さらに工夫により取り組んでいくことが求められる。

## (7) 子ども読書活動の推進

本の展示や行事を通して、読書への興味や本との出会いを創出している。職員全員がおすすめの本を紹介する展示や、行事と関連した本の紹介等を行っている。乳幼児サービスでは、定例のあかちゃんタイム\*やおはなし会のほか、保育園や幼稚園の児童が来館した際に、その場でおはなし会を実施する「おさんぽおはなし会」等の取組が行われた。

行事のテーマも多岐にわたり、工作会だけでなくプラネタリウムや昆虫の観察（セミの羽化、カブトムシ）のような理科系のものも増えてきている。また、地域図書館が合同でスタンプラリーを実施する取組もあり、区内の他の図書館へ行くきっかけ作りとなった。

中学生へのサービスとしては、高井戸図書館が隣接する高井戸中学校図書館との間の扉を毎日昼休みに開放するとともに、ワークショップも行った。また、近隣の中学校3校と連携して、新中学1年生に向けたリーフレットを作成した館もあった。

「杉並区子ども読書活動推進計画」は令和3年度に見直しが行われることもあり、進捗状況を確認しながら引き続き取組を進めていく。

※あかちゃんタイム…保護者が乳幼児と一緒に気兼ねなく利用できるよう、他の利用者の理解を求める時間帯。

## (8) 他機関との連携

「(4) 講座・講演会・行事の開催」にあるとおり、地域団体との協働により様々な行事が行われている。

「(7) 子ども読書活動の推進」の一環として、学校との連携による事業も実施している。特に、中学校との連携では、「オススメしたい本2019」として図書委員が本のPOP（紹介カード）を作成し、飾りつけを図書館スタッフと共に行った例や、中学生によるおはなし会や布絵本、創作絵本等の作品展示を行った例、学校へ講師として訪問し、講習会やワークショップ（ブックカバー、POPの作成）を行った例等があり、中学生に図書館に親しんでもらい、利

用につなげていく取組が行われた。また、中学校の学校司書との連携によりブックリストやおたよりの作成も行った。

さらに、地域の児童館、子育てネットワークの活動にも参加し、協働で紙芝居公演の実施等も行っている。

一般向けの事業としては、中小企業診断士会との連携による創業・経営相談会や地域包括支援センターケア 24 との連携による認知症講座や相談会等を行っている。

地域の様々な機関との連携によって、図書館サービスの充実が図られている。また、区民の課題解決や図書館と他機関相互での利用促進につながることから、今後も積極的に進めていく必要がある。

#### (9) 人材育成・研修計画

研修については、中央図書館主催で全館を対象にした研修や、各館で館内研修を行ったほか、外部団体主催研修にも参加した。

また、全員で認知症サポーター講座を受け、館内での啓発展示を実施した館や、毎月の館内整理日にベテラン職員による研修を行った館、スキルアップと手順の統一化を図るためのロールプレイング研修を行った館等、館内研修もさかんに行われている。

事業者を含めた区全体での研修によるレベルアップと各館での研修の計画的な実施を今後進めていく。

#### (10) 広報・情報発信

館内では、職員おすすめ本のリーフレットや紙芝居リストの作成、YA 掲示板の新設、おたよりの刷新等が行われた。

地域のイベントカレンダーへの通年掲載、地域の子育てネットワークニュース、区民センター広報誌への記事掲載等、外部の媒体を利用した情報発信を行う館が増えてきた。また、小学校へのイベントチラシの配布等も行われた。

SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の Twitter（ツイッター）を使った情報発信は宮前、高井戸図書館が行っているが、日々更新することで閲覧者が増加している。内容も、利用案内やイベント情報を館のオリジナルキャラクターを使用して発信する等、親しみやすい工夫されている。

広報や様々な媒体による情報発信は、未来館者への利用啓発にもなる。令和 2 年度には教育委員会が YouTube（ユーチューブ）を使った公式チャンネルを開設したことから、図書館での活用も検討が必要である。また、災害や感染症に関する情報提供を図書館としてどのように行っていくかも引き続き課題となる。

### Ⅲ 重点項目の評価

令和4年度に予定している「サービス基本方針」の見直しに合わせ、10項目の評価項目について、令和元年度から令和3年度にかけて毎年3～4項目を重点項目として深く掘り下げた評価を実施していく。令和元年度は、「資料の充実」「ボランティアとの協働」「他機関との連携」の3項目について行った。

今年度は、「学びの場」から「誰もが利用しやすい図書館に」、「知の共同体」から「講座・講演会・行事の開催」、「楽しい交流空間」から「子ども読書活動の推進」の3項目を選び、平成25年度から令和元年度までの事業について総合的な評価を行った。

#### (1) 誰もが利用しやすい図書館に

##### 【事業の概要】

- ・図書館ホームページ等の整備により、時間や場所に拘束されずに図書館が持つ情報を利用できるようにし、利便性の向上を図る。
- ・来館が困難な方にも図書館を利用していただくための方法を検討する。
- ・施設、設備のユニバーサルデザイン化や省エネルギー化などに取り組み、誰もが使いやすい図書館を目指す。

##### 【図書館サービス基本方針策定後の主な成果】

###### ① 情報通信技術の活用

平成29年度の図書館システム更新に伴い、スマートフォン専用画面、書影の表示、関連資料の紹介、返却期限お知らせメール等の機能を新たに追加し、利便性の向上を図った。

また、図書館ホームページからの資料の予約、利用者用端末機の使い方などの利用講座を実施するなどの支援も行っている。各図書館で利用できるデータベースの種類も増加している。

利用者満足度調査の「パソコン利用について（館内設置パソコン、持込パソコン）」では、平成25年度（館内設置パソコンのみ）の「満足」19.8%に対し、令和2年度は25.8%（地域図書館のみ24.0%）であった。「満足」「やや満足」を合わせた数値は、平成25年度の37.0%が令和2年度の42.0%（地域図書館のみ40.4%）となっている。この間、持込パソコン用の閲覧席や電源の使用できる席を設置し、時間制での貸出を行ってきたが、施設・設備の面から席数が少なかったことから、満足度を大きく上げることはできなかった。

中央図書館は、改修により閲覧席を増やしたこと、パソコンの持ち込みがどこでもできるようになったことから「満足」の回答率が前年度の16.7%から40.0%へ上昇した。館内でのパソコン使用については、環境の整備も必要であるため、今後の改修・改築時の課題とする。

###### ② 来館が困難な方へのサービス

障害のある方への郵送による貸出サービスを継続するとともに、来館が困難な方への宅配による貸出サービスを実施する場合の利用条件や実施方法について、他自治体図書館の実践事例等の情報収集を行ったが実施には至らなかった。

また、区内の高齢者施設などに対して、資料の団体貸出サービスを行っている。

### ③ 利用しやすい図書館

全館で書架見出し、サイン、案内図等のリニューアルを行い、その際にピクトグラムを使用する等の工夫を行った。また、読書を補助する器具、リーディングトラッカー※、ルーペ、シニアグラスを設置した。

また、高齢者、親子連れの利用が多い図書のを入口付近に移動するといった書架の配置換えを行う、高書架の最上段には本を置かないといった配慮も行った。

利用者満足度調査の「館内施設は利用しやすいか」という項目について、平成 25 年度は「館内の表示はわかりやすいか」「館内は清潔で利用しやすいか」の 2 項目に分けている。「満足」「やや満足」を合わせた全館平均値は、それぞれ 89.5%、93.0%であった。改修工事を行った中央図書館については、平成 25 年度の 85.8%、88.1%から令和 2 年度は 91.5%となり、改修の成果が表れている。地域図書館全体の平均値は、平成 25 年度の 90.2%、93.9%から令和 2 年度は 94.2%となっており、施設の老朽化が進んでいるにもかかわらず満足度は上昇している。各館での工夫や改善が、満足度の改善につながっていることから、今後も引き続き改善を進める必要がある。

※リーディングトラッカー…視覚に障害のある人や集中して読書をしたい人向けの読書補助具。

### 【課題と今後の取組の方向性】

平成元年に公布、施行された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）に基づき、誰でも利用しやすい施設・設備のあり方や読むことが困難な人向けに作成された資料の収集等について見直していく必要がある。また、令和元年度末には、新型コロナウイルス感染症対策により、休館や館内サービスの制限を行ったことから、非来館サービスについての必要性が改めて認識された。

電子書籍や音楽配信サービス等、来館せずに図書館利用ができるサービスの導入について、他自治体の事例を調査したり費用対効果等を検証したりする必要がある。

## (2) 講座・講演会・行事の開催

### 【事業の概要】

- ・外部の人材や専門家の活用や区内の様々な団体との協働による講座や講演会の実施により、受講者のスキルアップを支援するとともに、受講者同士の情報共有が行えるようにする。
- ・個人の学習成果を共有したり、地域の人たちが持つ技能・アイデア・能力などを発揮したりできるような場を提供する。

### 【図書館サービス基本方針策定後の主な成果】

#### ① 外部人材・専門家の活用

外部人材の活用については、地域在住の専門家による講座や講演会が増加した。

内容としては、読み聞かせ講座、朗読(音訳)者ボランティア養成講座、本の修理講座など、スキルアップを目指した講座を行うほか、和紙漉き体験やコーヒーの淹れ方講座など、テーマが多岐にわたるようになった。

杉並区やゆかりの作家をテーマとした事業を展開し、区民の地域に対する興味・関心や愛着を生み出すことができている。また、地域在住のボランティアによる読み聞かせ・おはなし会も盛んに行っている。

実績数値をみると、平成 25 年度は全館で 2,605 回開催し参加者は 35,248 名であったが、令和元年度は中央図書館休館と新型コロナウイルス感染症による休館や行事中止の影

響もあり、開催回数は2,186回、参加者は26,460名であった。経年変化をみると、実績数値は横ばいとなっている。

利用者満足度調査の「行事（講演会・おはなし会など）」という項目について、平成25年度は「講演会」「映画会」「おはなし会」の3項目に分けている。「満足」「やや満足」を合わせた全館平均値は、それぞれ15.3%、17.6%、17.6%で、令和2年度は40.0%（地域図書館のみ40.8%）となっている。実績数値はあまり変わらないが満足度がかなり上がっていることから、利用者のニーズに合った行事が実施されるようになったと考えられる。

## ② 区内の様々な団体との協働

区の施設（地域区民センター、小・中学校、ケア24、体育館、済美教育センター等）や区が協定により連携している団体や大学との協働による行事を行っている。

また、単館で行っていた夏季休業中の子ども向けの行事（スタンプラリー）を複数の地域図書館、図書館と学校図書館が協力して行うようになった。

## ③ 区民の発表の場・交流の場の提供

館内で区民や区内団体の作品の展示を行ったり、朗読や読み聞かせの発表の場を提供したりしている。地域区民の作品を展示するだけでなく、見た人にメッセージカードを書いてもらうことで、出展者と閲覧者の交流を行っている。

また、ワークショップや読書会など、参加者同士が交流できる講座を行っている。

### 【課題と今後の取組の方向性】

令和元年度末からは、新型コロナウイルス感染症対策により、行事を中止、縮小せざるを得ない状況となった。今後も感染症予防対策をした上での行事实施となるが、引き続き、地域在住者や団体との連携を保ちながら、多様なテーマを扱い幅広い年齢を対象とした講座や講演会を企画実現していく。また、区内団体の活動支援として、館内施設の利用推進も行う。

ビジネス支援、子育て支援、健康・介護など、課題解決型の相談会や講座についても、区内団体との連携をさらに進めていくとともに、図書館での事業をきっかけとして、世代を超えた交流を図っていく。

## （3）子ども読書活動の推進

### 【事業の概要】

- ・「杉並区子ども読書活動推進計画」に基づき、区民やボランティア、関係機関との協働により、子ども向けの多様なサービスを充実させ、読書活動の推進を行う。
- ・活動を支えるためのボランティア等の人材育成を行う。

### 【図書館サービス基本方針策定後の主な成果】

児童（0歳～12歳）の利用状況は、平成25年度の貸出人数が約157,000人、貸出冊数が766,000冊であった。令和元年度は中央図書館が休館していたため、平成30年度の数値をみると、貸出人数が約174,000人、貸出冊数が約896,000冊となっている。0歳から12歳までの児童の人口について平成26年3月（47,205人）と平成31年3月（52,456人）を比較すると約5,000人増えているが、それ以上に利用は大きく増えていることがわかる。

## ① 子ども読書活動推進計画に基づく活動

### ア 乳幼児サービス

「あかちゃんタイム」「あかちゃんおはなし会」の実施により、乳幼児連れ保護者への利用支援を行った。「ブックスタート」事業をきっかけに継続して図書館を利用してもらう取組として、子育てコーナーの設置や保護者向けの絵本講座等を行った。また、時間のない方のために「絵本パック」を作り、貸し出した館もある。

### イ 小学生向けサービス

地域の小学校に図書館から出かけて季節に合った本を紹介し、子どもたちに読書の楽しさを伝えるブックトーク事業を長年続けている館がある。新たな取組としては、学校の夏季休業中に、カウンターに「図書館ガイド」を設置して質問に答えたり、利用ガイダンスの講座（「図書館探検」等）を行ったりするほか、利用促進のために、スタンプラリー等の行事も定例化している。また、虫の持ち方講座、スズムシの飼い方講座、伝統玩具の制作など、多様な行事を行っている。

### ウ 中・高校生向けサービス

各館で夏休み等の多目的室開放、職場体験、実習生との協働で行った YA コーナー展示等、多様な事業を展開している。

中学校と連携し、中学生がおはなし会や館内展示での POP の作成、ブックリストの作成を行う、図書館職員が中学校を訪問して POP 作成講座を行うといった取組もある。また、学校司書との連携により、小学 6 年生向けの利用案内「中学校の図書室へようこそ」の作成やおたよりの作成等を行っている。

### エ 特別な支援を必要とする子どもへの支援

中央図書館では、区立の重症心身障害児通所施設「わかば」で読み聞かせを行っている。また、高井戸図書館では都立大塚ろう学校での出張おはなし会を行っている。

## ② 区民、関係機関（学校等）との協働によるサービスの充実

おはなし会、あかちゃんタイム、ブックスタート事業を区民ボランティアと協働して実施するとともに、連携強化を図るため、情報交換会を実施している。

児童館、子供園、保育園との連携により、出張おはなし会や図書館訪問等を行っているほか、地域子育てネットワークの各機関との連携も各図書館で行っている。サイエンスフェスタ、子育てメッセなどの区のイベントに出展し、プレママ・プレパパも含めた子育て世代の区民に図書館の子ども読書活動について広報している。

小・中学校については、学校司書、教員との連携により、学校訪問、団体貸出、調べ学習の受入等を行っている。学校司書、各学校や地域との連携を取り、イベントの開催など協働による取組も実施している。

## 【課題と今後の取組の方向性】

単館での事業でよい取組があれば全館へ水平展開していく。読書の機会が減る中学生、高校生に来館してもらう図書館を目指し、中・高校生世代の意見を取り入れ、YA コーナーと関連書籍の蔵書構成を改善したり、中・高校生とともにイベントを開催したりする等の工夫をしていく。中学生については、区立中学校との連携が行われているが、区内の高校との連携については今後の課題である。

また、活動を支えるボランティアの受け入れや育成を引き続き行っていく。

## IV 図書館協議会の評価

---

図書館協議会では、図書館による評価（この報告書の2ページから12ページまでの評価）を検討して、図書館の活動とその評価が適正なものであることを全体として確認した。以下の項目は、各委員から寄せられたより詳細な意見になる。

### 1 「令和元年度の総括的評価」に関して

- ・「図書館サービス基本方針」は令和4年度末までとなるので、実績や利用者満足度について数値の低いもの等の原因を探って、基本方針の改定に活かしていく必要がある。
- ・利用者満足度調査について
  - 選択肢への回答の理由もわかるようにすることを考えていく必要がある。
  - 「レファレンス」「行事」「パソコンの利用」では、「知っているが利用なし」が半数となっているが、もっと利用者へアピールを行っていくのか、維持または縮小して、他のことをアピールしていくのか検討すべきである。特に「レファレンス」については、その理由を聞くことも考えるとよいのではないか。
  - 利用者満足度調査の自由意見に要望や希望があれば、それを協議会で検討していくことも必要だと思うので、まとめて見られるようにしてほしい。
- ・レファレンスサービスの利用とネット検索との関わりはどうか。両者の違いを図書館として示していくことも必要ではないか。

### 2 「評価項目の評価」に関して

- ・蔵書規模の適正化を行いながらも、分担収集も継続して蔵書の質の維持に重点を置いてほしい。また蔵書新鮮度にも留意してほしい。（(1)資料の充実）
- ・適正化で除籍を進めているが、区内で最後の1冊となる本は原則保存としているので、収集保存の役割はきちんと保たれていることが確認された。（(1)資料の充実）
- ・国立国会図書館デジタル資料送信サービスを未実施館にも利用を広げるなどの動向があるならば、反映させてはどうか。（(2)誰もが利用しやすい図書館に）
- ・展示コーナーの充実を進めてほしい。（(2)誰もが利用しやすい図書館に）
- ・それぞれの地域でのボランティアの調整は、とても大変だろうと思った。（(3)ボランティアとの協働）
- ・中長期的には延床面積を確保しつつ質の良い資料を用意して、資料の充実と快適な読書空間の確保の両立を考えていただきたい。（(4)快適な読書空間の整備）
- ・スタンプラリーのように直営館と指定管理館が連携するのはとても良いことである。直営館が声を上げて杉並区の図書館として一体感のある活動を推進していくことが大事である。（(5)子ども読書活動の推進）
- ・校長だけでなく図書部の先生や各担任などとの連携もあると、読書への関心がもっと高まるが、時間や機会を設けるのがなかなか大変だと思う。（(6)他機関との連携）
- ・10項目は、図書館としての目標をより具体的に挙げていくことで、実現しやすくなるのではないか。また、積み残しの課題がある場合にはそちらも記載してほしい。（全般）

### 3 「重点項目の評価」に関して

#### (1) 誰もが利用しやすい図書館に

- ・ 「① 情報通信技術の活用」は広報があまり行われていないようだ。来館者にもよくわからないし、図書館非利用者にどうやって知らせるのか検討すべきである。
- ・ 非来館型サービスについて、図書資料に加えてデジタル資料の権利購入についても引き続き検討をしていただきたい。

#### (2) 講座・講演会・行事の開催

- ・ 「② 区内の様々な団体との協働」で、区の施設の中に博物館が出てこないのはなぜか。もっと連携できるように思うし、目立った活動がないというのも残念である。
- ・ 非来館型のイベントも検討する必要がある。イベントのネット配信、展示物のネット公開（アーカイブ化）、双方向コミュニケーションツールを活用したオンラインビブリオバトル、ブックトーク、さらに読書会等、お金をなるべくかけずにできることがあるのではないか。
- ・ 利用者満足度調査の結果からの的確な分析ができています。

#### (3) 子ども読書活動の推進

- ・ 長年地域団体への支援を継続してきたことを評価したい。
- ・ 「① エ 特別な支援を必要とする子どもへの支援」では、学習障害で支援が必要な子どもたちに図書館としてどのようなことができるのかについてヒアリングを行って、検討することが必要である。
- ・ 「② 区民、関係機関（学校等）のとの協働によるサービスの充実」にある「あかちゃんタイム」については、時間を設定するのではなく、中長期的には赤ちゃんを同伴する利用者が安心していつでも利用できるように施設的な配慮で対応していくべきではないか。
- ・ ボランティアの受入れや育成についての実績が特に触れられていないため、ボランティアの方々が子ども読書活動の推進においてどのような働きをしてくれているのか知りたい。

### 4 意見・提言

この評価は、本来令和元年度の事業に対する評価であるが、中央図書館の改築工事や新型コロナウイルスの影響により利用者満足度調査の実施時期が例年と異なっていることもあって、例年以上に調査時点と前年度との切り分けが難しくなっている部分がある。令和2年度事業評価として次年度実施の評価に関連する項目を下記に追記しておく。

#### (1) 利用者満足度調査

- ・ 新型コロナウイルス感染症予防対策、例えば閲覧席の利用制限等が、利用者満足度調査の結果にどのように影響しているのかを明らかにするとよい。
- ・ 長期休館等があったにもかかわらず結果があまり変わらないのであれば、項目自体を、再考する必要があるかもしれない。もう少し具体的な項目を入れることはできないか。

#### (2) 講座・講演会・行事の開催

- ・ 今後は感染症対策を徹底した上で区民や参加者同士の交流をより推進するための方法をさらに考えていく必要がある。

#### (3) 中央図書館リニューアル

- ・ 改修されて明るく椅子が多く座れる場所がかなり増えて誰もが利用しやすいスペースが増えた。同時に図書館全体としての書庫の充実は大切である。
- ・ 児童コーナーへ利用者が誘導できるように館内の案内表示を用意してほしい。



## ＜資料 1＞ 図書館別実績数値

- ・ 杉並区立図書館全体の実績数値
- ・ 図書サービスコーナー、荻窪臨時図書窓口の実績数値
- ・ 杉並区立図書館（地域図書館）の実績数値
- ・ 各図書館別実績数値

評価項目	指標とする数値（単位）
資料の充実	蔵書冊数（冊）
	購入冊数（冊）
	蔵書の新鮮度（％）
	区民1人あたりの蔵書数（杉並区全体）（冊）
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数（人）
	利用登録者数（人）
	新規利用登録者数（人）
	年間貸出冊数（冊）
	予約貸出冊数（杉並区全体）（冊） ※杉並区ではシステム上図書館ごとの予約貸出冊数は算出できない。
	相互協力貸出冊数（都立図書館等の協力により貸出した冊数）（冊）
	区民1人あたり貸出冊数（杉並区全体）（冊）
	団体貸出団体数（団体）
	団体貸出冊数（冊）
	障害者サービス実施回数（杉並区全体）（回）
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数（件）
	データベース利用回数（杉並区全体）（回）
講座・講演会・行事の開催	事業実施回数（回）
	事業参加者数（人）
ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数（回）
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）（回）
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館ホームページ掲載回数、おたより発行回数（回）
	ホームページアクセス件数（杉並区全体）（件）
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）
	利用者1人あたり経費（円）

杉並区立図書館全体の実績数値

評価項目	指標	算出方法等	29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数	実績	2,243,803	2,164,880	2,118,447	97.9%	
	購入冊数	実績	105,568	98,561	83,960	85.2%	
	新鮮度	購入冊数÷開架冊数	7.3%	7.0%			
	区民1人あたりの蔵書数	蔵書数÷人口	3.96	3.79	3.68	97.1%	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	2,778,546	2,835,617	2,324,255	82.0%	
	利用登録者数	実績	183,580	188,113	190,469	101.3%	
	新規利用登録者数	実績	17,926	17,784	13,553	76.2%	
	年間貸出冊数	実績	4,320,180	4,373,269	3,722,738	85.1%	
	予約貸出冊数（相互協力貸出は都立図書館等の協力により貸出したもの）	予約貸出冊数(13館合計)		1,399,008	1,520,308	1,565,309	103.0%
		・区内処理件数(13館合計)		1,392,658	1,514,233	1,557,952	102.9%
		・相互協力貸出(13館合計)		6,350	6,075	7,357	121.1%
	区民1人あたり貸出冊数	年間貸出冊数÷人口	7.63	7.65	6.46	84.4%	
	団体貸出団体数	団体別登録数	1,150	1,120	1,113	99.4%	
	団体貸出冊数	実績	222,945	226,104	186,563	82.5%	
障害者サービス実施回数	実績	2,408	2,361	2,172	92.0%		
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	30,062	30,218	20,327	67.3%	
	データベース利用回数	実績(全データベース13館合計)	3,935	4,942	2,682	54.3%	
講座・講演会・行事の開催 <small>（「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）</small>	事業実施回数		2,431	2,649	2,186	82.5%	
	事業参加者数		33,534	35,794	26,460	73.9%	
ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数	協働事業実施回数	959	943	648	68.7%	
他機関との連携	学校への支援回数(団体貸出を除く)	調べ学習資料貸出	1,258	1,235	1,140	92.3%	
		ブックトーク等	75	87	62	71.3%	
		職場体験	56	54	42	77.8%	
		図書館見学	41	43	35	81.4%	
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	821	833	701	84.2%	
	ホームページアクセス件数	年間アクセス件数	30,739,414	33,931,070	31,353,906	92.4%	
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費(円)	年間経費÷貸出冊数	419.4	395.9	435.2	109.9%	
	利用者1人あたり経費(円)	年間経費÷入館者数	652.1	610.5	697.1	114.2%	

図書サービスコーナー、荻窪臨時図書窓口の実績数値

令和2年3月末現在

施設名	貸出登録者数（人）			個人貸出人数（人）			個人貸出冊数（冊）		
	総数	一般	児童	総数	一般	児童	総数	一般	児童
和田図書サービスコーナー	536	489	47	10,060	8,970	1,090	26,854	22,661	4,193
高円寺駅前図書サービスコーナー	2,484	2,416	68	45,744	44,101	1,643	107,188	101,095	6,093
桜上水北図書サービスコーナー	1,154	1,111	43	14,427	13,806	621	33,398	31,324	2,074
高井戸地域区民センター図書室	6,988	5,924	1,064	49,214	43,060	6,154	153,709	125,894	27,815
荻窪臨時図書窓口	196	164	32	29,729	27,235	2,494	80,619	71,232	9,387
計	11,358	10,104	1,254	149,174	137,172	12,002	401,768	352,206	49,562

※荻窪臨時図書窓口は、中央図書館改修工事休館中の臨時窓口として、平成31年4月15日から令和2年8月末まで設置

## 杉並区立図書館（地域図書館）の実績数値

評価項目	指標	算出方法等	29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比
資料の充実	蔵書冊数	実績	1,514,116	1,454,874	1,420,552	97.6%
	購入冊数	実績	86,603	80,466	75,057	93.3%
	新鮮度	購入冊数÷開架冊数	7.2%	6.9%	6.5%	-0.4
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	2,321,770	2,381,456	2,323,830	97.6%
	利用登録者数	実績	150,628	154,002	158,509	102.9%
	新規利用登録者数	実績	14,532	14,395	13,553	94.2%
	年間貸出冊数	実績	3,689,195	3,751,151	3,721,642	99.2%
	団体貸出団体数	団体別登録数	795	781	868	111.1%
	団体貸出冊数	実績	146,085	149,437	164,213	109.9%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	25,020	22,770	20,279	89.1%
講座・講演会・行事の開催（「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数		2,223	2,411	2,185	90.6%
	事業参加者数		30,391	32,562	26,430	81.2%
ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	909	881	648	73.6%
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	1,092	1,004	1,025	102.1%
		ブックトーク等	60	77	62	80.5%
		職場体験	52	51	42	82.4%
		図書館見学	39	41	35	85.4%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	743	735	681	92.7%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数		330.4	344.8	104.3%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数		520.5	552.2	106.1%

## 各図書館別実績数値

評価項目	指標	算出方法等	中央図書館			
			29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比
資料の充実	蔵書冊数（馬橋ふれあい図書室を含む）	実績	729,687	710,006	697,895	98.3%
	購入冊数	実績	18,965	18,095	8,903	49.2%
	新鮮度	購入冊数÷開架冊数	7.7%	8.1%		
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	456,776	454,161	425	0.1%
	利用登録者数	実績	32,952	34,111	31,960	93.7%
	年間貸出冊数	実績	630,985	622,118	1,096	0.2%
	団体貸出団体数	団体別登録数	355	339	245	72.3%
	団体貸出冊数	実績	76,860	76,667	22,350	29.2%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	5,042	7,448	48	0.6%
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	166	231	115	49.8%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	78	98	20	20.4%

※ 改修工事期間中に、「講座「知の散歩道」摂理から自然へ」を柿木図書館で開催した。（実施回数：1回、参加者数：30名）

評価項目	指標	算出方法等	永福図書館			
			29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比
資料の充実	蔵書冊数	実績	118,531	109,300	102,857	94.1%
	購入冊数	実績	7,544	6,970	6,441	92.4%
	新鮮度	購入冊数÷開架冊数	7.3%	7.3%	7.2%	-0.1
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	181,321	189,496	173,411	91.5%
	利用登録者数	実績	13,098	13,425	13,718	102.2%
	新規利用登録者数	実績	1,276	1,331	1,061	79.7%
	年間貸出冊数	実績	295,125	307,616	283,605	92.2%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	527	590	788	133.6%
	団体貸出団体数	団体別登録数	130	92	91	98.9%
	団体貸出冊数	実績	13,180	12,236	12,791	104.5%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	1,826	1,127	929	82.4%
講座・講演会・行事の開催  （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	110	109	116	106.4%
		映画会（一般）	1	1	0	0.0%
		映画会（児童）	0	2	2	100.0%
		一般向け事業（講演会、講座）	3	3	2	66.7%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	3	2	4	200.0%
		展示会	76	90	81	90.0%
		その他	5	6	6	100.0%
	事業参加者数	おはなし会	1,783	1,841	1,621	88.0%
		映画会（一般）	13	17	0	0.0%
		映画会（児童）	0	71	44	62.0%
		一般向け事業（講演会、講座）	152	144	119	82.6%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	132	105	219	208.6%
		その他	290	322	946	293.8%
		協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	62	57	57
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	201	154	86	55.8%
		ブックトーク等	3	4	4	100.0%
		職場体験	2	0	2	-
		図書館見学	3	3	2	66.7%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	47	57	48	84.2%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	337.3	307.8	341.0	110.8%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	549.1	499.7	557.7	111.6%

柿木図書館				高円寺図書館				
29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	
113,172	111,657	111,477	99.8%	128,631	120,796	120,635	99.9%	蔵書冊数
7,074	6,897	6,424	93.1%	7,469	6,737	6,395	94.9%	購入冊数
6.8%	6.8%	6.3%	-0.5	6.5%	6.3%	6.0%	-0.3	新鮮度
159,815	164,268	157,237	95.7%	204,920	221,164	236,524	106.9%	入館者数
8,995	9,105	9,315	102.3%	15,147	16,175	16,523	102.2%	利用登録者数
818	800	735	91.9%	1,848	1,858	1,720	92.6%	新規利用登録者数
249,387	255,405	240,674	94.2%	253,988	251,235	237,292	94.5%	年間貸出冊数
402	377	475	126.0%	452	375	690	184.0%	相互協力貸出冊数
58	55	57	103.6%	72	73	84	115.1%	団体貸出団体数
14,251	14,479	14,958	103.3%	17,514	18,834	21,393	113.6%	団体貸出冊数
501	940	767	81.6%	1,709	2,055	1,666	81.1%	レファレンス件数
60	65	58	89.2%	70	71	60	84.5%	おはなし会_回数
1	0	1	-	3	5	0	0.0%	映画会(一般)_回数
0	0	1	-	0	0	0	-	映画会(児童)_回数
1	1	0	0.0%	4	3	1	33.3%	一般向け事業(講演会、講座)_回数
2	1	1	100.0%	6	5	9	180.0%	児童向け事業(こども会、人形劇)_回数
24	24	24	100.0%	68	75	65	86.7%	展示会_回数
8	6	8	133.3%	14	11	6	54.5%	その他_回数
577	854	491	57.5%	907	814	709	87.1%	おはなし会_人数
5	0	24	-	32	48	0	0.0%	映画会(一般)_人数
0	0	52	-	0	0	0	-	映画会(児童)_人数
15	12	0	0.0%	128	140	38	27.1%	一般向け事業(講演会、講座)_人数
73	33	30	90.9%	233	190	247	130.0%	児童向け事業(こども会、人形劇)_人数
909	1,150	949	82.5%	939	1,294	218	16.8%	その他_人数
36	43	41	95.3%	61	62	55	88.7%	協働(ボランティア)事業実施回数
8	8	15	187.5%	134	120	117	97.5%	調べ学習資料貸出
17	28	27	96.4%	8	8	2	25.0%	ブックトーク等
1	1	3	300.0%	3	2	3	150.0%	職場体験
3	2	4	200.0%	2	1	2	200.0%	図書館見学
39	37	42	113.5%	61	52	44	84.6%	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数
546.2	545.0	583.4	107.1%	592.0	599.6	691.1	115.3%	貸出し1冊あたり経費(円)
852.3	847.4	893.1	105.4%	733.8	681.1	693.4	101.8%	利用者1人あたり経費(円)

評価項目	指標	算出方法等	宮前図書館			
			29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比
資料の充実	蔵書冊数	実績	129,802	126,483	120,620	95.4%
	購入冊数	実績	7,358	7,041	6,567	93.3%
	新鮮度	購入冊数÷開架冊数	6.5%	6.4%	6.3%	-0.1
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	232,327	237,631	220,772	92.9%
	利用登録者数	実績	14,377	14,669	15,016	102.4%
	新規利用登録者数	実績	1,443	1,342	1,221	91.0%
	年間貸出冊数	実績	390,189	398,674	380,773	95.5%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	621	627	861	137.3%
	団体貸出団体数	団体別登録数	101	104	112	107.7%
	団体貸出冊数	実績	16,300	16,157	18,049	111.7%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	3,336	2,566	1,895	73.9%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	71	71	66	93.0%
		映画会（一般）	0	0	1	-
		映画会（児童）	1	1	2	200.0%
		一般向け事業（講演会、講座）	13	20	14	70.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	6	2	2	100.0%
		展示会	35	29	37	127.6%
		その他	21	26	18	69.2%
	事業参加者数	おはなし会	1,555	1,581	1,659	104.9%
		映画会（一般）	0	0	36	-
		映画会（児童）	49	47	73	155.3%
		一般向け事業（講演会、講座）	385	549	356	64.8%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	242	177	134	75.7%
		その他	526	812	422	52.0%
		協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	53	39	42
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	137	156	181	116.0%
		ブックトーク等	0	0	0	-
		職場体験	6	5	6	120.0%
		図書館見学	3	3	5	166.7%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	80	81	74	91.4%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	258.5	241.4	255.6	105.9%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	434.2	405.0	440.8	108.9%

成田図書館				西荻図書館				
29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	
98,534	98,659	99,207	100.6%	138,939	135,698	136,190	100.4%	蔵書冊数
6,785	6,244	6,011	96.3%	6,986	6,484	6,125	94.5%	購入冊数
6.9%	6.3%	6.1%	-0.2	7.6%	7.1%	6.6%	-0.5	新鮮度
180,626	197,068	218,218	110.7%	190,074	196,805	189,174	96.1%	入館者数
10,887	11,037	11,533	104.5%	14,141	14,226	14,517	102.0%	利用登録者数
986	1,034	1,050	101.5%	1,210	1,119	1,048	93.7%	新規利用登録者数
282,031	315,364	373,618	118.5%	308,633	312,496	305,227	97.7%	年間貸出冊数
467	405	670	165.4%	660	593	778	131.2%	相互協力貸出冊数
78	80	87	108.8%	44	46	59	128.3%	団体貸出団体数
13,518	13,890	15,600	112.3%	11,431	9,872	10,818	109.6%	団体貸出冊数
717	1,015	1,651	162.7%	1,775	1,615	1,067	66.1%	レファレンス件数
67	85	76	89.4%	122	136	121	89.0%	おはなし会_回数
9	13	15	115.4%	3	1	0	0.0%	映画会(一般)_回数
2	3	5	166.7%	0	1	1	100.0%	映画会(児童)_回数
21	16	13	81.3%	6	6	8	133.3%	一般向け事業(講演会、講座)_回数
5	6	8	133.3%	6	7	2	28.6%	児童向け事業(こども会、人形劇)_回数
64	55	55	100.0%	48	43	40	93.0%	展示会_回数
2	3	1	33.3%	19	26	2	7.7%	その他_回数
1,208	1,292	1,037	80.3%	1,393	1,647	1,187	72.1%	おはなし会_人数
125	191	186	97.4%	33	31	0	0.0%	映画会(一般)_人数
47	69	135	195.7%	0	52	117	225.0%	映画会(児童)_人数
288	196	201	102.6%	216	203	91	44.8%	一般向け事業(講演会、講座)_人数
108	261	369	141.4%	343	372	129	34.7%	児童向け事業(こども会、人形劇)_人数
108	80	150	187.5%	299	971	49	5.0%	その他_人数
47	51	46	90.2%	129	123	107	87.0%	協働(ボランティア)事業実施回数
81	94	174	185.1%	15	31	37	119.4%	調べ学習資料貸出
0	4	1	25.0%	0	0	0	-	ブックトーク等
5	14	3	21.4%	4	4	6	150.0%	職場体験
0	13	3	23.1%	6	4	2	50.0%	図書館見学
63	49	41	83.7%	67	84	56	66.7%	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数
290.5	246.0	209.9	85.3%	521.3	478.5	551.4	115.2%	貸出し1冊あたり経費(円)
453.6	393.6	359.4	91.3%	846.5	759.8	889.7	117.1%	利用者1人あたり経費(円)

評価項目	指標	算出方法等	阿佐谷図書館			
			29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比
資料の充実	蔵書冊数	実績	141,048	128,029	123,492	96.5%
	購入冊数	実績	7,296	6,774	6,356	93.8%
	新鮮度	購入冊数÷開架冊数	7.5%	7.5%	7.2%	-0.3
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	234,512	230,630	239,448	103.8%
	利用登録者数	実績	14,249	14,598	15,165	103.9%
	新規利用登録者数	実績	1,368	1,354	1,425	105.2%
	年間貸出冊数	実績	318,927	323,769	375,262	115.9%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	475	382	731	191.4%
	団体貸出団体数	団体別登録数	39	41	62	151.2%
	団体貸出冊数	実績	5,800	6,072	7,739	127.5%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	2,032	1,021	1,635	160.1%
講座・講演会・行事の開催  （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	88	87	81	93.1%
		映画会（一般）	2	4	13	325.0%
		映画会（児童）	2	2	5	250.0%
		一般向け事業（講演会、講座）	6	7	5	71.4%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	27	9	16	177.8%
		展示会	49	51	79	154.9%
		その他	17	13	13	100.0%
	事業参加者数	おはなし会	1,208	1,349	1,126	83.5%
		映画会（一般）	65	35	133	380.0%
		映画会（児童）	78	13	95	730.8%
		一般向け事業（講演会、講座）	111	192	162	84.4%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	1,023	290	535	184.5%
		その他	215	38	64	168.4%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	70	63
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	59	46	50	108.7%
		ブックトーク等	2	0	0	-
		職場体験	4	4	4	100.0%
		図書館見学	6	3	7	233.3%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	106	72	88	122.2%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	285.3	267.7	232.5	86.8%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	388.0	375.7	364.3	97.0%



南荻窪図書館				下井草図書館				
29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	
143,081	140,190	131,631	93.9%	129,174	121,140	115,426	95.3%	蔵書冊数
7,266	6,794	6,130	90.2%	7,339	6,756	6,159	91.2%	購入冊数
7.4%	7.0%	6.6%	-0.4	8.5%	7.9%	7.6%	-0.3	新鮮度
148,197	151,690	154,255	101.7%	227,256	229,601	214,576	93.5%	入館者数
9,348	9,405	9,758	103.8%	13,355	13,668	14,072	103.0%	利用登録者数
707	833	856	102.8%	1,240	1,329	1,205	90.7%	新規利用登録者数
274,694	283,457	303,830	107.2%	342,578	344,540	311,721	90.5%	年間貸出冊数
352	281	647	230.2%	348	403	411	102.0%	相互協力貸出冊数
27	29	43	148.3%	46	50	47	94.0%	団体貸出団体数
7,707	8,003	11,914	148.9%	10,449	10,421	9,205	88.3%	団体貸出冊数
1,876	2,455	2,389	97.3%	2,231	2,389	1,903	79.7%	レファレンス件数
60	61	54	88.5%	124	125	113	90.4%	おはなし会_回数
1	2	2	100.0%	3	3	1	33.3%	映画会(一般)_回数
0	0	2	-	0	0	2	-	映画会(児童)_回数
3	4	2	50.0%	1	2	3	150.0%	一般向け事業(講演会、講座)_回数
2	4	5	125.0%	12	12	10	83.3%	児童向け事業(こども会、人形劇)_回数
66	74	66	89.2%	51	67	75	111.9%	展示会_回数
5	9	4	44.4%	2	2	2	100.0%	その他_回数
620	650	647	99.5%	2,149	1,977	1,768	89.4%	おはなし会_人数
40	64	18	28.1%	103	65	30	46.2%	映画会(一般)_人数
0	0	37	-	0	0	75	-	映画会(児童)_人数
59	77	58	75.3%	37	51	73	143.1%	一般向け事業(講演会、講座)_人数
51	116	89	76.7%	406	293	256	87.4%	児童向け事業(こども会、人形劇)_人数
296	1,112	617	55.5%	61	156	198	126.9%	その他_人数
61	62	37	59.7%	26	24	22	91.7%	協働(ボランティア)事業実施回数
54	47	79	168.1%	72	56	38	67.9%	調べ学習資料貸出
22	22	23	104.5%	0	0	0	-	ブックトーク等
3	2	2	100.0%	3	6	4	66.7%	職場体験
1	0	1	-	1	2	1	50.0%	図書館見学
45	31	43	138.7%	50	53	58	109.4%	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数
337.6	317.7	291.1	91.6%	280.6	279.6	305.7	109.3%	貸出し1冊あたり経費(円)
625.7	593.7	573.4	96.6%	422.9	419.6	444.1	105.8%	利用者1人あたり経費(円)

評価項目	指標	算出方法等	高井戸図書館			
			29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比
資料の充実	蔵書冊数	実績	129,430	126,413	121,295	96.0%
	購入冊数	実績	7,286	6,712	6,167	91.9%
	新鮮度	購入冊数÷開架冊数	7.7%	7.1%	6.7%	-0.4
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	226,601	220,546	204,496	92.7%
	利用登録者数	実績	15,930	16,109	16,500	102.4%
	新規利用登録者数	実績	1,513	1,315	1,284	97.6%
	年間貸出冊数	実績	380,001	373,252	356,259	95.4%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	703	654	721	110.2%
	団体貸出団体数	団体別登録数	94	102	104	102.0%
	団体貸出冊数	実績	17,032	17,857	19,199	107.5%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	5,236	2,488	2,049	82.4%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	133	134	125	93.3%
		映画会（一般）	4	14	0	0.0%
		映画会（児童）	2	9	3	33.3%
		一般向け事業（講演会、講座）	42	44	40	90.9%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	3	3	3	100.0%
		展示会	112	102	89	87.3%
		その他	4	7	3	42.9%
	事業参加者数	おはなし会	2,694	2,474	1,873	75.7%
		映画会（一般）	63	178	0	0.0%
		映画会（児童）	81	343	116	33.8%
		一般向け事業（講演会、講座）	1,232	958	951	99.3%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	108	136	146	107.4%
		その他	26	22	187	850.0%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	233	228
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	146	149	103	69.1%
		ブックトーク等	4	7	2	28.6%
		職場体験	11	5	4	80.0%
		図書館見学	9	7	5	71.4%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	82	106	91	85.8%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	255.6	245.7	260.0	105.8%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	428.6	415.8	453.0	108.9%

方南図書館				今川図書館				
29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	29年度実績	30年度実績	元年度実績	前年度比	
116,421	111,090	110,597	99.6%	127,353	125,419	127,125	101.4%	蔵書冊数
6,965	6,397	6,108	95.5%	7,235	6,660	6,174	92.7%	購入冊数
7.3%	7.1%	6.8%	-0.3	6.9%	6.2%	5.8%	-0.4	新鮮度
144,055	150,319	134,805	89.7%	192,066	192,238	180,914	94.1%	入館者数
10,682	11,014	11,436	103.8%	10,419	10,571	10,956	103.6%	利用登録者数
1,090	1,145	1,072	93.6%	1,033	935	876	93.7%	新規利用登録者数
257,410	257,495	242,668	94.2%	336,232	327,848	310,713	94.8%	年間貸出冊数
174	180	301	167.2%	215	240	284	118.3%	相互協力貸出冊数
59	62	64	103.2%	47	47	58	123.4%	団体貸出団体数
10,497	14,363	14,190	98.8%	8,406	7,253	8,357	115.2%	団体貸出冊数
1,361	2,153	2,696	125.2%	2,420	2,946	1,632	55.4%	レファレンス件数
101	106	103	97.2%	83	89	83	93.3%	おはなし会_回数
1	0	0	-	1	0	0	-	映画会(一般)_回数
3	5	3	60.0%	0	0	0	-	映画会(児童)_回数
18	18	9	50.0%	5	10	6	60.0%	一般向け事業(講演会、講座)_回数
10	10	6	60.0%	10	7	13	185.7%	児童向け事業(こども会、人形劇)_回数
65	126	96	76.2%	75	75	84	112.0%	展示会_回数
34	24	19	79.2%	16	60	15	25.0%	その他_回数
1,415	2,027	2,059	101.6%	1,414	1,379	966	70.1%	おはなし会_人数
23	0	0	-	11	0	0	-	映画会(一般)_人数
75	107	114	106.5%	0	0	0	-	映画会(児童)_人数
341	368	234	63.6%	105	247	176	71.3%	一般向け事業(講演会、講座)_人数
463	314	221	70.4%	497	217	822	378.8%	児童向け事業(こども会、人形劇)_人数
1,374	919	156	17.0%	834	829	390	47.0%	その他_人数
77	71	66	93.0%	54	58	56	96.6%	協働(ボランティア)事業実施回数
84	80	74	92.5%	101	63	71	112.7%	調べ学習資料貸出
2	2	3	150.0%	2	2	0	0.0%	ブックトーク等
5	3	3	100.0%	5	5	2	40.0%	職場体験
0	1	2	200.0%	5	2	1	50.0%	図書館見学
50	61	50	82.0%	53	52	46	88.5%	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数
334.1	315.2	350.7	111.3%	266.6	261.4	287.4	109.9%	貸出し1冊あたり経費(円)
597.0	539.9	631.3	116.9%	466.8	445.8	493.6	110.7%	利用者1人あたり経費(円)

○杉並区立図書館の概要(図書館要覧より抜粋)

図書館名	開設年月日	延床面積	施設構造	蔵書冊数 (令和2年3月末現在)
中央※	昭和57年10月5日	4,397.14㎡	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	697,895冊 <small>(馬橋ふれあい図書 室分3,571冊含む)</small>
永福	昭和40年8月1日	1,190.85㎡	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	102,857冊
柿木	昭和40年8月1日	1,162.61㎡	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	111,477冊
高円寺	昭和42年11月1日	1,895.28㎡	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階	120,635冊
宮前	昭和47年11月1日	1,974.02㎡	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階	120,620冊
成田	昭和60年9月3日	851.38㎡	鉄筋コンクリート造 地上2階	99,207冊
西荻	平成2年5月5日	1,195.38㎡	鉄筋コンクリート造 地上2階	136,190冊
阿佐谷	平成5年2月11日	1,086.67㎡	鉄筋コンクリート造 地上2階	123,492冊
南荻窪	平成5年11月23日	1,061.24㎡	鉄筋コンクリート造 地上2階	131,631冊
下井草	平成9年5月1日	1,104.30㎡	鉄筋コンクリート造 地上2階	115,426冊
高井戸	平成10年5月1日	1,622.89㎡	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	121,295冊
方南	平成17年11月3日	815.16㎡	鉄筋コンクリート造 地上2階 (保育園併設)	110,597冊
今川	平成19年12月16日	1,083.32㎡	鉄筋コンクリート造 地上2階 (ゆうゆう館併設)	127,125冊

※ 中央図書館は大規模改修工事のため、平成31年4月1日から令和2年9月4日まで休館。

## ＜資料2＞項目別自己評価表

「サービス基本方針」に基づき、10項目について各図書館で自己評価を行い、目標と取組結果、課題・改善点についてまとめている。

### ＜評価する10項目＞

3つの視点と取組の方向	項目
学びの場	1. 資料の充実
	2. 誰もが利用しやすい図書館に
知の共同体	3. レファレンス（調べもの相談）の充実
	4. 講座・講演会・行事の開催
楽しい交流空間	5. ボランティアとの協働
	6. 快適な読書空間の整備
	7. 子ども読書活動の推進
取組推進のための基盤整備	8. 他機関との連携
	9. 人材育成・研修計画
	10. 広報・情報発信

### ＜自己評価＞

令和元年度当初に設定した目標について取り組んだ実績に対し、項目ごとに各館がA～Dの自己評価を行った。

- A…目標を達成したうえ、高いレベルで取組が実施されていた。
- B…計画どおり実施され、成果があった。
- C…概ね計画どおりだが、一部課題が残った。
- D…計画どおりに行かず、取組みが不十分であった。

## ○ 資料の充実

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	休館に伴い、蔵書規模の適正化を蔵書移管前に実施し、目標達成を目指す。	中央図書館の目標について、達成することができた（103%）。
永福	四半期ごとに蔵書数を把握し、保管替え・除籍・リサイクル作業を慎重に行う。	永福図書館の蔵書数目標については、目標値を上回って達成できた。資料の所蔵状況や貸出状況などを1冊ずつ確認し、慎重に資料管理を行った。
柿木	幅広い分野において資料収集を行うとともに、資料の更新を図ることによって、利用者の要望に応じていく。	分担収集部門である自然科学や医学の本の収集を強化し、同時に定期的に除籍処理を行うことで、書棚に並ぶ本の刷新を図った。
高円寺	図書館の移転・改築を見据え、所蔵する資料の点検・評価を実施し、蔵書規模の適正化を進める。	除籍目標を高めに設定したため達成率が若干低くなったが、児童書を中心に情報の古い本や汚破損本の廃棄を進めた。
宮前	蔵書適正化に伴う館内資料および書架の整理を行い、地域資料コーナーを作成する。	蔵書適正化に伴う除籍作業は計画通りに進捗させることが容易ではなく、目標数値に到達することが出来なかった。高い書架が多く、一度に多量の資料を除籍すると隙間が目立つため、バランスを取りつつ作業を行った。
成田	児童書の地理歴史など比較的古くなった分野の買い替えを行う。	児童書は、古くなった分野の買い替え並びに主に利用者からのリクエストへの対応を図った。また絵本では、ロングセラーのもので劣化の激しい汚破損本を買い替えた。
西荻	計画的な資料の点検・除籍を進めながら、蔵書規模の適正化を図る。	新規図書の購入を積極的に進めることで、開架図書の充実を図ることができた。また、保存庫の過剰になった図書の精査を進めることで、除籍を行うことができた。
阿佐谷	除籍を推進し新規資料との更新を図る。	約10,000冊を除籍し、蔵書適正化の目標数値をほぼ達成できた。古い資料が減る事で書架が明るくなり、読みたい本を見つけやすくなった。
南荻窪	蔵書規模の適正化を図るとともに、館の重点課題図書の整備に努める。	蔵書規模の適正化は本年度の目標には及ばなかったが、順調に計画を進めている。重点収集である、技術・環境に関する資料を集め、常設展示の充実を図った。
下井草	蔵書を適切に管理するため、除籍を計画的に行う。	年度末の蔵書数は、蔵書規模の適正化計画の目標値を達成することができた。
高井戸	「蔵書規模の適正化」の計画に沿った除籍を行う。	蔵書に偏りが出ないようにバランスを取りながら除籍と収集を進めることができた。
方南	蔵書規模の適正化を計画的に実施するとともに、重点課題である「子育て支援」と分担収集分野である「社会科学（経済）」の買い替えによる蔵書の更新を進める。	重点課題、分担収集分野を見直し、蔵書規模の適正化の基準値に向けて除籍を進め、目標値を達成した。
今川	重点課題「緑化推進」に関連した資料展示を実施する。	常設展示と季節毎のテーマ展示を実施した。各展示の資料を手にとってご覧になる方が増え、資料の貸出が増えた。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	令和2年度が計画の最終年度であり、達成に向けて取り組んでいく。	A
永福	引き続き蔵書数の目標値に近づくよう資料管理を行う。	A
柿木	新刊の出版は多岐にわたっており、良書であっても見落とされている場合がある。発注する本については定期的に大型書店に出向き話題になっている本をチェックする必要がある。	B
高円寺	今年は中央図書館改修に伴い、団体貸出クラス数が大幅に増えたため、除籍量を抑えた結果、除籍の目標冊数には達しなかった。次年度は除籍作業の効率化を図り、遅れを取り戻したい。	B
宮前	蔵書適正化は、一部計画の修正や書架の並びも含めて考えつつ作業にあたる。地域資料コーナーは設置すべき書架に移動することが出来たため、どのような資料を並べるか選定を行う予定である。	B
成田	破損の激しいものや利用の少ないものの買い替えを進め、基本書についても見直しを行い、魅力ある書架づくりを行う。	B
西荻	一般書の保存庫の2類、開架部分の6類、現代小説は過剰であるため、引き続き精査が必要である。また、児童書は、買い替えを進め、さらに充実させる必要がある。	B
阿佐谷	令和2年度が蔵書規模の適正化計画の最終年度であり、達成に向けて取り組んでいく。	A
南荻窪	令和2年度が最終年度であり、達成に向けて取り組んでいく。	B
下井草	利用者の読書ニーズに対応するため、蔵書規模の適正化に沿って進める。	A
高井戸	目標に対する達成率が低かったが、精査して慎重に除籍を進めることができた。次年度は目標最終年度のため、より効率的に計画を進める。	B
方南	蔵書規模の適正化で達成した目標値を維持する。選定基準改訂を基に収集計画を見直す。	A
今川	ゆうゆう今川館との併設施設であることを鑑み、次年度の重点課題を変更し、「世代間交流」をテーマに取り組むこととする。	A

## ○ 誰もが利用しやすい図書館に

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	改修後の中央図書館の排架計画やサービス向上に向けた検討を行う。	改修後の中央図書館の排架計画、データベースのプリントアウトサービス等について検討を行った。
永福	書架案内の更新、必要に応じた資料の配置替えを行い、幼児・児童・年配の方の目線を考えた探しやすい書架を目指す。	書架の配置替えに合わせて書架案内、児童書架の絵本の見出しを更新した。一般書架は棚の一番下は本を置かないなど、閲覧しやすいよう工夫を行った。新聞閲覧台は夕日が当たる位置にあるため、日よけを作成した。
柿木	館内の案内を工夫して、本の場所等がわかりやすい図書館とする。来館者に対して、助言や案内を積極的に行い、利用しやすい図書館とする。	新聞雑誌閲覧コーナーは常に整理を心掛け、資料が散逸しないよう当番をつけて整理に当たった。また利用者への注意喚起の表示をして、皆さんで利用しているとの意識を持ってもらうよう工夫をした。
高円寺	傷みのひどい利用者用椅子、机、書架、床Pタイルの取替・修繕を行う。館内の案内表示を工夫する。	中央図書館改修に伴い不用となった椅子などを、YA、雑誌コーナーなどで再利用した。中央図書館の全国の電話帳を引き受けた。駐輪場横の屋外喫煙所を周到に準備し、撤去した。
宮前	図書館利用の案内や掲示物を更新する。	図書館利用に関する案内だけでなく、予約資料通知メールの設定の方法、各種イベントのお知らせ、館内室温設定、図書館周辺の地図等を作成した。地図には近隣のバス停を示すことで利便性の向上を図った。
成田	中央休館に伴う新規利用者にもわかり易く案内できるよう改善する。	カウンターはより丁寧な接客対応を図った。また新規イベントも積極的に実施した。さらに、利用者満足度調査の結果を踏まえ、誰でもトイレに温水洗浄便座を新設した。
西荻	利用者にわかりやすい館内表示になるように、継続して見直しを図る。	館内、館外に掲示してある案内については、古いものは整理し、新しくすることで、利用者に対してわかりやすい案内や注意喚起の表示を行うことができた。
阿佐谷	書架配置、見出しを見直し、読みたい本を見つけやすくする。	新着資料の位置や、児童書の文庫やシリーズ本の配置を変えて、より手に取りやすくした。文士村、文庫コーナーの見出しを変えて統一感を出した。
南荻窪	館内の書架案内表示の一部変更を含め、利用者が目的の資料に到達しやすくする。	館内サインを適宜見直し、利便性の向上につなげた。
下井草	わかりやすい館内サインやお知らせを作成し掲示する。	図書館サービスの案内や行事のお知らせに関する掲示物について、ブラックボードを設置し、誰もがわかりやすく見えるよう工夫をした。
高井戸	館内サインを見直し、誰もがわかりやすい表示を目指す。	図書館からの案内が他施設のポスターなどに紛れて見にくくならないように、色を統一して、はっきりとわかりやすい案内に改善することができた。
方南	蔵書規模の適正化によって生まれた空間の有効活用を図り、誰もが利用しやすい書架づくりを目指す。	書架の最上段の棚板を抜き、資料の案内表示を増やし、安全で見やすく利用しやすい書架づくりの工夫をした。
今川	高齢者、障害者への配慮を行う。	「杉並区障害者週間」に読書補助具や点字本、大活字本などの展示を行った。全スタッフを対象に館内研修「ヘルプマークを知っていますか？」を実施した。



	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	利用しやすい図書館となるよう、排架計画に基づき、サインの整備やコーナーの整備を進める。	B
永福	資料数に合わせた書架の配置を考える。	B
柿木	エレベーターが無い場合、車椅子や脚の不自由な区民には利用しづらい。	A
高円寺	引き続き色あせた書架見出しや誘導サインなどを更新する。除籍を進め余裕が生まれた書架については、手の届かない高い位置にある本を取り出しやすい位置に移動する。	A
宮前	広報に掲載するイベントには近隣の利用者以外の方々も訪れることがある。杉並区全体としての利便性を高めるために宮前図書館の特徴を広く知ってもらう施策を講じる予定である。	B
成田	2階の閲覧スペースを有効活用し、広く周知する。	A
西荻	利用者にとってわかりやすい館内表示方法、文字の大きさなどの工夫を図っていく。現代小説の著者の見出しの増設を進めていく必要がある。	B
阿佐谷	利用者の利便性の向上と館内美化の為に見出しと書架配置は順次刷新していく。	A
南荻窪	掲示物の刷新を図り、求める資料にたどり着きやすい書架を目指す。	A
下井草	館内案内や掲示物を見直し、見やすくわかりやすいものに更新する。	B
高井戸	館内掲示の貼り替えなど細部は改善できたが、館外のガラスケースの刷新など、大掛かりな部分には、手が付けられなかった。	B
方南	日本十進分類法 10 版への移行及び杉並分類の見直しに向けて、資料の案内表示を見直し、資料を探しやすい書架づくりを目指す。	B
今川	今後も点字本、大活字本、LLブックや読書補助具の購入を進めるとともに、職員の合理的配慮の理解と意識の向上に繋がるような研修を実施し、誰もが利用しやすい図書館を目指していく。	A

## ○ レファレンス（調べもの相談）の充実

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	休館中も web レファレンスサービスを継続するとともに、各館への調査協力を行う。	休館中、web でのレファレンス回答件数は 30 年度の 121 件から 48 件と減少したが、他館からの資料取り寄せ等により回答し、サービスを継続した。
永福	調べ物相談に対応する雰囲気づくりや、レファレンススキルの向上に努める。	レファレンスカウンターを設置し、レファレンス=調べ物相談であることの周知のため、バッジ着用などを行った。レファレンス記録は、好事例を全スタッフに周知を行った。
柿木	職員にはレファレンス研修などに参加させ、技術の向上を図る。職員全体がレベルアップするよう打合せ時間等を使ってフィードバックする。	中央図書館のレファレンス研修に 2 名を参加させ、職員の技術向上を行うことができた。また、職場の打ち合わせにおいて、研修報告をすることによって、職員全体に知識を共有することにつながった。
高円寺	レファレンス研修には積極的に参加し、その受講者が職場会などで、その受講内容に基づき解説・説明を行い、係職員全体のレベルアップを図る。	都立中央、多摩図書館の研修に 2 名の職員が複数回参加し、技術の向上を図った。また、その研修内容に基づき係職員の能力向上と意欲が高められるようにその受講生が講師となり職場会で OJT を実施した。
宮前	利用者用データベースの活用を促進する（国会図書館デジタル化資料送信サービス含む）。	中央図書館の休館に伴い、国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用を開始した。各データベースの利用案内を PC 席壁面に設置し、利用を促した。
成田	事例共有を実施する。	毎月の定例ミーティングの際、特に気をつけるべき事例などをケーススタディとして発表、共有した。
西荻	職員のレファレンス能力の向上を図るために、積極的に研修に参加させる。	中央図書館開催の研修に新人職員 2 名が参加し、職員の能力向上を行うことができた。受講者が講師となり、他の職員に研修内容を伝えることで、情報共有をすることができた。
阿佐谷	館内レファレンス研修を実施し、技術向上を図る。	十進分類法や、システム障害対応、汚破損シールの取り扱いの変更や大学図書館横断検索等の研修を行い、全職員のスキルと知識の向上を図った。
南荻窪	定期的な研修による職員のスキルアップをする。	研修受講者により研修内容を他の職員と情報共有を図り、全体のレベルアップにつなげた。
下井草	事典等の調べもの用参考図書の充実を図るため、新版や新刊を購入する。	年鑑 4 種、語学辞典 2 種、その他専門事典について、新刊を約 26 冊購入した。
高井戸	中央図書館の改修工事に伴う資料移管の機会を有効活用し、現物を使った地域資料研修を実施する。	杉並区の地域史について、館内整理日を利用し、職員全員に、直接現物資料を用いて具体的な研修をすることができた。それにより迅速かつ幅広い案内ができるようになった。
方南	レファレンススキル向上のため、研修を実施し、誰もが同じレファレンスサービスが提供できるスキルを取得し、維持する。	レファレンス研修に参加し、館内整理日にレファレンスインタビュー研修を実施した。夏休み期間に図書館ガイド窓口を設置し、職員からの声かけを心掛け、自主的に資料を探せる児童や調べもの利用も増えた。
今川	調べものに役立つ催しの企画を検討する。	小学生を対象に、クイズ形式で楽しく本の探し方や図書館の活用法を学ぶ「としょかんツアー～みんなでミッケ～」を実施した。子どもたちを普段立ち入れない書庫に案内するなどして、図書館への関心を一層高めることができた。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	中央図書館開館後の窓口でのレファレンスサービスについて検討、準備を行う。	B
永福	レファレンス件数増加のため、利用者への声かけや質問しやすい雰囲気づくりを考える。	B
柿木	利用者の問い合わせ内容が難しい場合は、回答や案内に手間取る場合がある。	B
高円寺	研修参加者による OJT を確実に実施し、係職員のレベルアップを図っていく。	B
宮前	利用される方々も数人いたが、利用できることの周知が足りない。様々な情報を活用することを知っていれば、図書館の利用率が向上するため、周知や案内を継続していく。	B
成田	参考調査資料の買替や新規購入を行い、利用者の調べものやレファレンス用の資料を充実させる。	A
西荻	レファレンスについては、職員個人ではなく、全員の課題として対応する体制を整えていく。レファレンスの記録を残していくことで、職員にフィードバックさせていく。	B
阿佐谷	スタッフ全員のスキルアップを目指し、継続して研修を実施していく。	B
南荻窪	個人のスキルアップと、レファレンス調査の際のレファレンス・ツールの知識を各職員が把握し、速やかに対応できるよう取組む。	B
下井草	辞典等の調べもの用参考図書の情報古くなっている資料については、引き続き新版や新刊を購入していく。	B
高井戸	地域資料のみならず、中央図書館にしかない禁帯出の参考図書などが高井戸図書館に移管されている機会を最大限に活かし、現物資料を使ったレファレンス研修を引き続き実施する。	A
方南	継続して実施するためにより良い環境づくりを行う。	B
今川	「としょかんツアー」を継続して実施していく。また、大人版「図書館ツアー」の実施に向けて取り組んでいく。	A

○ 講座・講演会・行事の開催

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	リニューアルオープンにふさわしい行事の検討を行う。	9月～3月の行事（オープン記念講演会、人形劇、「知の散歩道」など）について、提携先と連絡をとり、準備を進めた。
永福	好評事業の確実な実施と新規事業を実施し、事業実施の際は、関連資料の展示やブックトークを行う。	紙芝居公演・人形劇・遺言や相続に関する講演会・大人のための朗読会など好評事業を実施。新規事業として、英語おはなし会・児童のための図書館内ツアー・子ども映画会などを実施した。
柿木	本の展示については、年間を通した企画、計画を立てて実施していくとともに、テーマを決めて講演会等の事業を行っていく。	本の展示は年間を通してテーマを決め、幅広いジャンルの本を展示することができた。講演会は中央図書館休館のため柿木で開催した「知の散歩道」が好評だった。
高円寺	利用者増につながるようなおはなし会、人形劇、寄席などを実施する。	「第五福竜丸」・「原水爆禁止署名運動」パネル展示、区内被爆者と署名運動を始めた人の家族による語りの会を実施した。人形劇・寄席などの開催時にはその事業に関連した館内展示も行った。
宮前	一般、児童を含めた幅広いジャンルの講座を開催する。	例年開催し好評を得ている事業は継続し、新たに追加した事業も一般・児童ともにバランスよく配置することが出来た。本の編集者を招き、古典文学の魅力を伝えていただいたり、生態展示をしているスズムシに関して、飼育の仕方を教えたりした。
成田	親子で参加できるイベントを実施する。	ベビーヨガ、親子で楽しむ映画会、日本フィルハーモニー交響楽団による演奏会等を企画・実施し、後者については親子連れを中心に100名以上の参加者があった。
西荻	地域関連団体との連携を図りながら、講座、講演会を実施する。	地域団体と協力し、講演会「西荻アカデミア」を2回開催し、好評を得た。西荻地域在住者所属の落語研究会の落語上演会を開催し、多くの参加者で盛況だった。
阿佐谷	阿佐ヶ谷文士村に関する事業で文士村を広く周知する。	太宰治や井伏鱒二の作品の朗読会を行い、阿佐ヶ谷文士村の関連作品を地域の方々に紹介した。
南荻窪	近隣地域在住の講師による講座、イベントを開催する。	近隣在住の講師による講座・イベントは恒例となり告知の時期になると問い合わせがくるような人気イベントとなった。
下井草	専門家を招いた一般向け講座や児童向け行事を行う。	一般向けは健康講座、落語会、鉄道講演会、児童向けは夏のスペシャル工作会、冬のスペシャル工作会の5行事を、外部の専門家を招いて開催した。
高井戸	知的好奇心を刺激する多種多様な行事の実施する。	科学あそび教室やヨガ講座・高井戸寄席・コーヒーの淹れ方講座など、幅広い内容の講座を多く実施することができた。普段は図書館に訪れない方にも図書館に興味を持ってもらえた。
方南	0歳児から大人まで、様々な年齢の方がそれぞれが楽しめる事業を実施し、2020年の東京オリンピックに向けた事業を企画する。	年齢を意識した事業として、おはなし会や親子参加型の子育て支援講座や工作会を実施。その他、しかけえほん展示やオリンピックに向けた多言語事業として、英語おはなし会や特集展示を実施した。
今川	地域の歴史や文化に関連した事業を実施する。	異文化交流「留学生による絵本の読み聞かせ」を東京女子大学と連携して実施した。同じ絵本を日本語と外国語とで読むことにより、その比較や他言語による読み聞かせの場を提供できた。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	行事・展示を実施するスペースが、改修前と異なるため、内容だけでなく、参加者の動線なども考慮した実施方法の検討を進める。	B
永福	新規事業実施時に集計したアンケート結果をもとに、さらに参加してもらえる内容に改善していく。	B
柿木	講座、講演会を開催しても、それらが利用者の読書意欲を高める結果に繋がっていない。	B
高円寺	単なる事業実施で終わらず、事業に関連した資料の展示も行い、図書館利用につながるように工夫する。アンケートも取り、次回の事業内容の改善につなげる。	B
宮前	各事業について利用者の評価は概ね良いものだった（アンケートによる）。このことに満足せず、利用者の好奇心を引き立てるような事業を継続していきたい。	A
成田	広報を強化し、参加者を増やしていく。	A
西荻	地域の人たちの協力を得ながら、さらに充実した講演会の内容を計画していく。好評な事業は継続し、新規の事業も検討していく。	A
阿佐谷	地域の特色である「阿佐ヶ谷文士村」を浸透させるために、イベントや展示を継続して行う。	A
南荻窪	恒例となった講演会のほかに新たな講演会を実施する。今後も継続のため、広く周知に努めていく。	A
下井草	幅広い世代や多様化する地域住民に向けて各種行事を行っていく。	A
高井戸	大人向けの行事に比べ子ども向けの行事が少なかったのでバランスを取りながら行事や催しを実施していく。	A
方南	アンケート結果等を参考に事業の見直しと新規事業を企画し、様々な年齢に合わせて多彩な事業を展開する。	B
今川	幅広い年齢層を対象とした魅力ある事業を企画し、図書館利用の促進を図る。	B

## ○ ボランティアとの協働

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	図書館ボランティアの継続的な育成・支援を行う。	ボランティアと協働している事業（障害者サービス・ブックスタート・馬橋ふれあい図書室）を、円滑に実施した。
永福	年2回のボランティア連絡会と、図書館スタッフとボランティアが協働したおはなし会を実施する。	ボランティア連絡会では、おはなし会の実施状況の報告・ボランティアとスタッフの協働おはなし会の打合せ・意見交換などを行った。8月にボランティアとスタッフによる協働おはなし会を実施した。
柿木	地域の人材を積極的にボランティアとして活用し、幅広く協働をしていく。またボランティアと情報交換を行い今後の活動に生かしていく。	毎月のおはなし会やあかちゃんタイムは主にボランティアが担当した。今後も担当職員と協力連携を図り、ボランティアの利用を推進する。
高円寺	ボランティア団体と協働事業を開催し、支援・育成を図る。	ボランティア団体との協働事業としておはなし会、人形劇、寄席などを実施した。毎年中央館で語りの会を開催している団体と語りの会を実施した。
宮前	ボランティアとの綿密なミーティングとそれにつながる事業を実施する。	おはなし会、リトミック、わらべうた等をボランティアとの密な連絡により、さらなる発展を行うことができた。リトミックは新たに2～3歳児向けのものを開催することができた。
成田	ボランティア団体と共に、児童イベントの協業を実施する。	ボランティア2団体と協業し「大きなおはなし会」を実施した。定例のおはなし会より広いスペースで、プログラムも充実させ、多くの親子連れの交流の場となった。
西荻	地域ボランティア団体を活用して、おはなし会・朗読会を開催する。	ボランティアの方が主体となって行っている朗読会や子供向けの定例のおはなし会、スペシャルおはなし会を開催し盛況だった。
阿佐谷	読み聞かせボランティアによるおはなし会・朗読会を開催する。	定例のおはなし会やあかちゃんおはなし会以外にも、夏の「怪談おはなし会」や「おとなのための朗読会」など多岐にわたって活動していただいた。
南荻窪	おはなし会等での協働を行う。	定番の「おはなし会」「あかちゃんおはなし会」に加え、パネルシアターも積極的に行った。
下井草	ボランティアとの良好な協働事業を実施するとともに、情報交換を行う。	おはなし会ボランティア団体と協働し、おはなし会を年2回開催した。布絵本作製ボランティア団体と協働し、布絵本や布製カードケースを作製した。また、各団体と情報交換会を行った。
高井戸	ミニギャラリー（地域の方の作品展示スペース）の充実を図る。	地域の方々の趣味や学びの成果を共有する場として、毎月展示の入れ替えを行い、ミニギャラリーを充実させることができた。また出展者同士で協働して展示をするなど、新たな交流空間の場としても活用された。
方南	ボランティア連絡会で情報共有をするとともに、ボランティアの個性を生かしたおはなし会を実施する。	ボランティア連絡会で、実施状況報告と意見交換を行った。また、大人向けおはなし会や英語おはなし会、スペシャルおはなし会を実施した。
今川	子どもの読書応援団（意見交換会）を実施する。	読み聞かせボランティア4団体との「子どもの読書応援団」（意見交換会）を開催した。また、「グループ読書会」、「おはなし会リレー」等、各団体の発表の場を提供した。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	中央図書館休館中、地域館に移した各ボランティア団体の拠点（定例会開催や資料の受け渡し場所）を、中央図書館に戻す。	B
永福	ボランティアが実施するおはなし会では、スタッフがサポートし児童の誘導、本の紹介など積極的に行う。	B
柿木	ボランティアとの意見交換の機会を作り、さらに良い催し物の実現を図る。ボランティアの積極的な活用を推進する。	B
高円寺	ボランティア団体「育父部」のメンバーが減少しているので、その団体が選本しているおすすめ本コーナーは職員との協働選書方式に変更する。	A
宮前	ボランティアとはさらにミーティングを重ね、図書館の可能性を探り、新たなボランティアとの協働事業が可能かどうかを考える。	B
成田	定例のおはなし会やあかちゃんタイム以外のボランティアと協働する機会を増やしていく。	B
西荻	ボランティアとの連携の強化を図るために、個別の懇談会を行い、相談、要望を聞いた上で、次年度の事業を進めていく。	A
阿佐谷	地域連携の一環として、引き続きボランティアとの協働事業を行っていく。	B
南荻窪	毎週水曜日の「おはなし会」と第三水曜日「あかちゃんおはなし会」で協働し、情報交換をしながら密に協力を継続していく。新たな取り組みの計画、推進を行う。	B
下井草	今後も各団体との意見（情報）交換を行い、協働事業を進めていく。	B
高井戸	SNS（Twitter）を活用し、広範囲に出展者を募り、引き続き充実したギャラリーを作る。	A
方南	新型コロナウイルス感染症対策として、2/26からおはなし会を中止し、3月のボランティア連絡会も中止した。ボランティアとの連絡体制を整え、再開時期を慎重に検討する。	B
今川	読み聞かせボランティア4団体との意見交換会を継続して行い、引き続き子どもたちの読書活動を支援していく。	A

## ○ 快適な読書空間の整備

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	令和2年9月のリニューアルオープンに向けて、よりよい読書空間を創造する。	リニューアルオープン後を見据えて、利用者が快適に利用できる閲覧室のレイアウトや空調設備等について検討した。
永福	日常巡回による不具合箇所を早期発見と、重要度の高い箇所を見極めた修繕を実施する。	定期点検・定期清掃のほか、空調機修繕・高木剪定・点字ブロック補修・外灯照明の交換等、館の状況や重要度から実施順位を判断し修繕を行った。
柿木	館内の読書環境を整え、利用しやすい図書館づくりをしていく。また、館内の巡回を行い、利用者の安全に十分注意して館運営を行っていく。	緑の多い閑静な住宅街の中にある図書館として、落ち着いた雰囲気を活かした読書に適した環境を提供できるよう心掛けた。こまめな温度調節を行い快適な室内環境の維持に配慮した。また、図書館内の安全を考慮し、館内の巡回を強化した。
高円寺	利用者が気持ちよく利用できるように館内巡回を実施する。老朽館だが、館内環境を整え、入館しやすい図書館を目指す。	安心安全の観点から日々の館内巡回を確実に実施した。危険だった3階OPAC設置場所周辺の床タイルを広範囲に張り替えた。駐輪場と1階エントランスにある外灯を、明るいLED照明の外灯に取り替えた。
宮前	館内美化に努め、読書環境を整える。	3階に読書室があり、多数の閲覧席を備えているので、利用率がいつも高い。今年度はそれ以外の部分(2階一般書架・児童書架、中2階)の椅子を増設し、読書環境整備に努めた。
成田	定期的な巡回による安全の確保を行う。	年間を通じ日々定期的な巡回を実施し、熱中症の時期には利用者への声掛け等も実施した。
西荻	利用者が快適な館内環境で過ごせるために、館内の巡回、定期的な点検を行う。	定期的な館内巡回を行うことにより、施設の安全を保つことができた。また、入口付近のディスプレイの展示や装飾を充実させることで、利用者から好評を得た。
阿佐谷	備品の見直しや導入を行う。	中央図書館休館にあたり不要となった閲覧席用の椅子やブックトラック、展示台、書架、新聞閲覧台等を再利用し、館内備品を刷新した。
南荻窪	空調設備の更新と照明機器のLED化工事を実施する。楽しい読書空間作り(児童図書フロア)を行う。	10月、11月の工事期間を経て空調設備を刷新し、LED化によって館内が明るくなった、きれいになったという利用者からの声が多くあった。また、工事期間中に書架の配置換えや除籍を進めることができた。
下井草	館内装飾を季節や行事ごとに変更し、新鮮で明るい雰囲気にする。	毎月、季節を感じる折り紙作品を、カウンターに月毎に飾り付けた。また、階段や児童フロアにも季節ごとに装飾を行った。
高井戸	安全で安心な読書環境を提供するために、定期巡回を実施する。	「巡回中」の腕章をつけ、チェックリストを元に館内外の巡回を徹底し、安心安全の環境を整えることができた。
方南	日頃の巡回と定期点検に合わせて、経年劣化による不具合等の修繕を行い、快適な読書空間の整備を行う。	雨漏りや空調機器、非常灯の修繕と壁紙や閲覧席の貼り換えを行った。館内に温度計を設置し、室温管理を開始した。
今川	館内の過ごしやすい環境作りを通じ図書館利用と資料利用の促進を図る。	閲覧席の増加や施設の有効活用を目的に、多目的室を「調べ学習室」として4月から通年開放した。また、大型ブックエンドを活用して大型本を見やすく手に取りやすいようにした。



	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	誰もが利用しやすい読書環境を整えるためユニバーサルデザイン等に配慮した表示や設備等について検討をする。	B
永福	不具合発見時から修繕・補修まで時間がたち過ぎないように、素早い対応を目指す。	B
柿木	近隣住民が気軽に立ち寄り、時間を過ごすことができる快適な図書館づくりを目指す。椅子への配慮、小物類の貸出提供を行う。	B
高田寺	80人以上が入る読書室は、カウンターもないため利用者間のトラブルが多い。定時見回りだけでなく、同フロアでの書架戻し作業時など、職員一人一人が注意を払っていく。	B
宮前	滞在型図書館が昨今の図書館の主流となっているが、建物自体が新しいものではないため内部を改修しながら、それに近づけていく。閲覧席の増設、植物の配置、生態展示の増加等、更なる充実を図る。	A
成田	閲覧コーナーの備品、館内表示や書架見出し、児童コーナーの装飾の見直しを行う。	B
西荻	利用者にとって、利用しやすく、不便を感じない施設環境を整備していくために、引き続き定期的な点検を行っていく。	B
阿佐谷	古い物、使い勝手の悪い物を新しい物に変えていき、配置も見直す。	B
南荻窪	季節に合わせた展示を行い、参加型の掲示を楽しんでもらえるよう企画し継続する。中高生に向けたコーナーの充実を図る。	A
下井草	カウンター装飾の折り紙作品は好評であり、今後も明るい雰囲気づくりを継続していく。	A
高井戸	巡回の際に館内掲示の劣化などもチェックし、今後とも常に整えられた環境で利用者を迎えらるようにする。	B
方南	外灯や館内照明の不具合や交換が多く、経年劣化が目立った。優先順位を慎重に検討し、速やかに実施する。	C
今川	「調べ学習室」は想定外に多くの利用があり、通年開放を次年度も継続する。	A

## ○ 子ども読書活動の推進

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	休館中もブックスタート、コンクール事業、ブックリストの作成等を実施する。	ブックスタート、コンクール事業、ブックリストの作成等、連携先や地域図書館と調整を行いながら、円滑に実施した。
永福	年齢を意識した事業と、どの年齢でも参加できる事業を実施する。東京オリンピック・パラリンピック関連の展示を行う。	小学生対象におはなし会やブックトークを含むプラネタリウム鑑賞等を実施、どの年齢も参加できる事業は、紙芝居公演・ハンドベル演奏・落語を実施した。「障がい者スポーツとそれを支える人と技術」「物語の中のスポーツ」をテーマに資料を展示した。
柿木	図書館に親しみを感じ、読書に興味を持ってもらえるような事業を行う。小学校でのブックトークにより、本の魅力を伝え、図書館利用の促進を図る。	一年を通して季節を感じさせる子ども向けに本の紹介を行った。子どもたちの関心が高まるよう絵本や読み物の児童書の充実を図った。また、おはなし会やあかちゃんタイムの実施を通して、幼児期からの本に親しむ環境づくりとしての図書館の役割を果たすことができた。
高円寺	あかちゃんタイムや工作会等親子で参加できる事業や「図書館探検」事業を充実させる。	前年度より多く、工作会・科学遊びの会を実施した。「図書館探検」事業も普段見られないバックヤードの作業見学も取り入れ、興味を持って貰えるように工夫した。
宮前	夏休み子どもイベントについて工夫をこらして実施する。	絵本作家によるワークショップ「おててえほんをつくろう!」、「手話っておもしろい!」を実施した。イベントのテーマを繋げることで、参加できる年齢の幅を広げ、参加を促した。
成田	スタッフおすすめの本の展示を行う。	POPによるスタッフ全員分の本の紹介(展示)を行った。一緒に配布したブックリストも好評を得た。
西荻	親子向け事業の充実を図る。	毎月のあかちゃんタイム、週2回のおはなし会、こどもの広場のほか、年間を通じてパネルシアター、ハンドベルコンサートも実施した。
阿佐谷	親子で参加できる事業を実施する。	親子映画会や工作会、英語によるおはなし会、紙芝居、かるた大会やボードゲーム大会等、家族で楽しめる行事を行った。
南荻窪	近隣の学校との協働事業と保育園や幼稚園、児童館でのおはなし会、「おさんぽおはなし会」の計画、推進を行う。	保育園や幼稚園の児童が選本で来館した際に、その場でおはなし会を実施する「おさんぽおはなし会」を昨年度に続き実施した。また、工事期間中には出張おはなし会として、保育園や児童館でおはなし会を実施した。
下井草	おはなし会、工作会等の定例行事を行う。	定期的に行われ、利用者に定例行事として定着させることで、児童の継続的な図書館利用に繋げることができた。
高井戸	高井戸中学校と図書館を繋ぐ連絡扉の有効活用をする。	連絡扉を昼休みにほぼ毎日開けることができた。その際にワークショップを行なう等、図書館に興味を持ってもらうきっかけ作りができた。図書館利用ガイダンスも新1年生に実施した。
方南	読書活動の推進を図るとともに、蔵書規模の適正化により生まれた空間を活用して読書環境を整える。	高円寺図書館協働事業「こうほうラリー」と「なつやすみスタンプラリー」を実施した。YAコーナーに文庫棚を新設し、多目的室開放を夏休み、冬休み、試験時期に実施し、子どもたちの利用しやすい環境づくりを行った。
今川	中高生世代の読書活動の推進のための取り組みを行う。	近隣中学校3校の学校司書と連携し、リーフレット「中学校の図書室へようこそ」のイラストを生徒から募集して、3月に近隣小学校を卒業する6年生の児童に贈った。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	新中央図書館への引っ越しがあるが、事業に支障が無い様、準備を進める。	A
永福	継続する事業をより円滑に実施できるよう、講師との打合せや準備をより密に行う。	A
柿木	定例のおはなし会や事業ではマンネリ化してしまう恐れがあるため、さらに新しい事業を考えて行く等、積極的に子どもに興味を持ってもらえるよう進めて行く。	A
高円寺	長年ボランティアによる人形劇を上演していたが、ボランティアがやめてしまったため、来年度は人形劇団に委託して実施する。	A
宮前	事業をひとつのテーマで連関させることで、イベントに参加はしやすくなったかもしれないが意図が十分伝わっていたとはいえ、利用者に対して発信していくことの難しさがあった。	B
成田	フローを見直し更に効率よく展示や行事を実施する。	B
西荻	定例のおはなし会、あかちゃんタイムでは、子育ての情報交換の場としての役割を担うことができるので、より多くの参加者が集まるように声かけやちらしの配布等を行っていく。	B
阿佐谷	図書館の特性を活かした家族で楽しめる行事を実施していく。	A
南荻窪	工事期間中に行った「出張おはなし会」が好評で、継続の要望が多かった。実施に向けて検討、準備を行う。	A
下井草	おはなし会や工作会の定例行事は、利用者に周知・定着している。これらを継続するとともに、未利用者へのPRを行う。	B
高井戸	ひと工夫必要な事業は、学校司書と相談の上、再考し、好評だった事業は次年度も継続して行う。	A
方南	「なつやすみスタンプラリー」は、スタンプを集めやすい工夫をし達成者が増えたが、読みたい本が見つけれないという声もあり案内方法に課題が残った。	B
今川	贈呈後のフォローアップ（図書館利用継続促進）を検討する。	A

## ○ 他機関との連携

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	休館中も引き続き、学校図書館との連携を図る。	学級への団体貸出は、返却期限を開館後に設定した。調べ学習資料の貸出では、学校司書カードの利便性を高め、配送も月1回行った。
永福	近隣施設職員と協働した定期的な出張おはなし会と、近隣中学校との連携によるおたよりの発行を継続する。	月3回、大宮児童館にて児童館職員とおはなし会を実施した。月1回、子ども・子育てプラザ和泉へ出張おはなし会を実施した。永福南児童館主催の「ゆめパラダイス」に参加、リサイクル本の提供を行った。大宮中学校図書委員と協働し、おたよりを発行した。
柿木	近隣小学校新1年生の図書館見学で利用促進を図り、1、2年生各クラスでブックトークを行い、読書の楽しさを伝える。	小学1年生に図書館見学を企画し、図書館の使い方を伝えるとともに、大型紙芝居を使ったおはなし会を行い、図書館の利用促進を図った。またブックトークは様々なテーマで本を紹介し、2校の1、2年生各クラスで年間を通じて実施した。
高円寺	団体貸出等学校図書館への支援を行う。図書館見学、職場体験も積極的に受け入れる。	中央館改修に伴い団体貸出をさらに2校分受入れた。また、図書館見学、職場体験を希望する学校はすべて受け入れ、図書館サービスの社会的役割を伝えた。
宮前	各施設および地域団体イベントへ積極的に参加する。	従来行っている地域団体イベントへの参加について継続して行った。
成田	学校図書館と協働する。	東田中学校の図書委員によるYA展示「オススメしたい本2019」を行った。中学生がPOPを作成し、木をモチーフにした飾りつけを図書館スタッフと共に行った。
西荻	近隣小・中学校、近隣関係機関との連携を図り、事業を実施する。	小学校の図書館見学、夏休みのスタンプラリー、中学生のおはなし会、中学生が作成した図書の壁新聞掲示で連携を図った。また、東京女子大学と協力して、講演会を実施した。
阿佐谷	近隣の4つの中学校との連携を図る。	中学生へのPOP講習会、中学生が読み聞かせをするおはなし会を行った。布絵本や創作絵本等、中学生の作品を館内で展示した。中学生のおすすめの本のブックリストを作成、配布した。
南荻窪	近隣の小中学校・区内施設との連携強化を行う。	小・中学校の学校司書を図書館に招き、情報共有を目的とした連絡会を行った。
下井草	学校司書との連絡会を実施し、近隣小・中学校との連携を深め、YA事業の充実を図る。	学校司書連絡会でYA向けブックリスト「ようこそ、本の庭へ」を共同で作成した。学校司書との協働事業を通じて、良好な連携体制を構築することができた。
高井戸	職場体験の積極的な受け入れをする。	人数の調整を行ない、できるだけたくさんの学校からの依頼を受けられるようにした。また、高校生や大学生の受け入れも積極的に行うことができた。
方南	近隣施設との良好な関係を築くとともに、地域子育てネットワークに参加し連携を図る。	方南児童館での地域子育てネットワーク事業に参加し、協働で紙芝居公演も実施した。新規事業として、方南児童館出張おはなし会、泉南中学校作品展示を実施した。併設のむさしの保育園と出前保育と合同避難訓練も実施した。
今川	学校図書館との連携と支援を行う。	近隣小学校4校・中学校3校の学校司書との「子どもの読書応援団」（意見交換会）を実施した。図書館職員出張ワークショップ「図書室で布製ブックカバーを作ろう」や「中学生のつくった保育ガイドブックの展示」など新たな取組に繋がった。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	9月のリニューアルオープン時に休館前の貸出体制に戻すため、学校や学校司書に連絡をする。	B
永福	近隣施設との協働事業を継続するため、移転の周知や移転後の事業実施についての準備を進める。	B
柿木	三谷小学校、四宮小学校との連携を強化することで、小学生の読書推進を図る。	A
高円寺	学校司書との連携を強化する場として、意見交換会を過去2回継続的に開催しているが、感染症対策による休館により開催できなかった。	B
宮前	松庵小学校へのイベント参加は叶わなかったが、近隣施設から協力要請があった。利用者とは異なる図書館の使い方があることを知ってもらうための施策を今後も講じなければならない。	B
成田	学校以外との連携がやや少ない。	B
西荻	小・中学校の学校司書との連絡会により連携を強化し、より充実した行事を協働して作り上げていく。また、東京女子大学と協力して講演会を実施できるように連携を継続していく。	B
阿佐谷	職場体験も含め、中学生が図書館に関わる機会を増やしていき、来館に繋げる。	A
南荻窪	図書館イベントの告知を学校の「図書室便り」に掲載する等、情報交換の場を密に設けながら、連携を強化する。	B
下井草	学校や区民センターと協力することで、地域の読書活動への貢献を行う。	A
高井戸	引き続き、図書館の仕事をより多くの方に知ってもらい、関心を持ってもらえるように、人員体制を整え積極的に受入れを行う。	B
方南	継続事業であるケア24方南出張相談会は内容を見直し、次年度も連携事業は継続して実施する。	B
今川	地域で子どもたちの読書活動を応援していくために学校司書と連携し、児童・生徒に読書や図書室に興味を示してもらえるような取組を今後も進めていく。	A

## ○ 人材育成・研修計画

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	全職員を対象とした研修を実施し、資質向上を図るとともに、職員研修全体の見直しを図る。	レファレンスサービスや図書館の自由に関する研修を実施し、図書館全体のサービスの向上を図った。
永福	中央図書館・指定管理者以外の研修にも積極的に参加し、業務活用できるよう研修報告を行う。	中央図書館主催の研修、指定管理者主催の研修参加のほか、東京子ども図書館主催の「児童図書館員のための初級研修プログラム」にも参加し、スタッフ間で情報共有・回覧を行った。
柿木	館内整理日を利用して、職場内研修を行うことや、中央図書館の研修に職員を派遣し、図書館員としての技術向上を図る。	新人職員の研修は、年度当初の館内整理日に実施し、より早い時期のカウンター業務習得に努めた。また、中央図書館のレファレンス研修での成果を他の職員にフィードバックさせるようにし、全員の技術力アップを図った。
高円寺	職場会で、レファレンス事例や問題となった事務処理事例を紹介し、全員で情報共有を図る。日常業務を調整し、専門研修に参加する。	年度当初、新人職員向け OJT を集中的に実施した。朝のミーティング時に必要な業務確認をし、毎月職場会の最後にテーマを決めてベテラン職員による研修を行った各種研修には複数名が参加し、その成果を職場会でフィードバックした。
宮前	図書館員スキルのボトムアップと研修（内部・外部）への積極的な参加を行う。	担当者（一般・児童・YA等）のジョブローテーションを行い、スキルのボトムアップを図った。本社で行う研修へスタッフを参加させることで図書館での業務レベルを向上させた。
成田	社内専門研修へ積極的に参加する。	海外図書館研修（台湾）にも参加し、世界での図書館最新動向の把握ならび情報共有に努めた。
西荻	職員能力向上を図るために、OJT を積極的に行う。	新人職員に対して、集中的に1か月間窓口業務 OJT を行った。毎月の職場会では、窓口業務等に関する懸案事項、疑問点等を挙げて情報を共有し、職員の力量アップを図った。
阿佐谷	認知症サポーター講座を実施する。	ケア 24 から講師を招いて、職員向けに認知症サポーター講座を行い認知症の理解を深めた。
南荻窪	内部研修や外部機関主催の研修に積極的にスタッフを派遣し、全員へフィードバックを行う。	館内での研修や本社でのテーマ別研修を受講したスタッフによるフィードバックを行った。指定管理館への移行に伴い選書・除籍についての研修を現行指定管理館に研修をしてもらった。
下井草	安心安全な読書環境を維持できるよう、認知症の理解や緊急時対応等の研修を行う。	スタッフ全員で認知症サポーター養成講座を受け、基本知識や支援について学んだ。また、9月の「認知症理解の普及啓発月間」に合わせて特別展示を行った。
高井戸	外部研修への参加と共有を積極的に行う。	館内研修だけでなく、外部で実施しているレファレンスやヤングアダルトサービス等の研修にも積極的に参加することができた。館内で情報共有して、全員で研鑽を積むことができた。
方南	研修に積極的に参加し、その情報を全員で共有し、スキルアップに努める。	中央図書館や都立図書館主催の研修に複数回参加し、研修報告によりスキルアップと情報共有を行った。館内整理日にロールプレイング研修を実施、スキルアップと手順の統一化を行った。
今川	職員のスキル向上のため、積極的に各研修へ参加して、自己研鑽に励む。	社内研修や図書館総合展フォーラム「新書と YA がであう」ほか、年間 29 の研修に参加しスキルアップに努めた。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	職員の専門性の向上を図るための人材育成のあり方について検討する。	B
永福	研修に参加しやすい人員配置を行う。	B
柿木	有能な図書館員になるためには、本に対する知識の収集や検索技術の向上が不可欠である。研修等に積極的に参加したり、職場間での情報共有をしたりする必要がある。	B
高円寺	事前に勤務調整を行い、研修には複数職員を派遣する。	B
宮前	各図書館スタッフには得意な分野とそうでない分野があるので、これを成長させつつ新たな取り組みに参加させ、スキルのボトムアップを図る。そうして向上させたものをどう図書館業務に反映させるかが今後の課題となる。	A
成田	館内研修を継続して行っていく。	A
西荻	職員間の協力を図りながら、各種研修に積極的に参加させる。研修で得られた成果について館内研修を行うことで、各々の業務にフィードバックさせていく。	B
阿佐谷	様々な利用者に対応する知識や理解を深める研修を実施する。	B
南荻窪	より積極的に外部の研修派遣に努め、フィードバックによる職員全員のスキルアップに努めたい。	A
下井草	館内ミーティングを利用しての館内研修の実施や外部の専門研修に積極的に参加する。	A
高井戸	引き続き、外部研修へは積極的に参加できるように、人員の調整を行なう。研修内容をまとめ情報共有に努める。	A
方南	今年度は研修の落選や中止があった。次年度も積極的に申し込み、スキルアップを図るとともに、新人教育にも力を入れる。	C
今川	目下必要な職員のスキルを精査しスキルアップを図っていく。	B

## ○ 広報・情報発信

	令和元年度の目標	今年度の取組結果
中央	区広報紙や区公式ホームページ、図書館ホームページ等に、休館に関する情報を迅速に掲載する。	休館に関する周知では、チラシや館内掲示等も使って積極的に情報発信に努めた。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う図書館の対応についても適時適切な発信を行った。
永福	おたよりの定期的発行と事業内容の広報を進め、図書館においても他施設の情報発信を行う。	一般・児童向けのおたよりのほか、YA 世代向けのおたよりを年4回発行した。秋の読書週間に「永福図書館員おすすめ本」のリーフレットを発行した。4月には児童向けに、永福図書館に所蔵している紙芝居リストを発行した。
柿木	広報誌を定期的に発行するとともに、図書館キャラクター「かき丸」を使い、親しみやすい広報や館内表示にも活用していく。	広報誌は計画どおり発行することができた。柿木図書館のキャラクターである「かき丸」を「まめがき」や児童コーナーの掲示に積極的に登場させ、子どもたちのアイドルになるようPR活動を行った。
高円寺	おたよりの定期発行と区広報紙やホームページ、地域団体のイベントカレンダーを活用し情報発信を行う。	区広報紙やホームページ等に掲載し、図書館未利用者にも情報発信ができた。高円寺地区地域教育推進協議会の高円寺地域イベントカレンダーに図書館事業を毎年掲載した。
宮前	Twitter (ツイッター) による効果的な情報発信を行う。	Twitter のフォロワー (登録者) 数は増加傾向にある。図書館だよりも同様のものを掲載することで相乗効果が見込まれる。近隣の施設や他の図書館とも相互フォローし、情報を多く発信することができた。
成田	館内にイベント紹介のスペースを新たに設置する。	館内案内を刷新した。また階段踊り場付近に館内報を掲示し、イベント等の情報を積極的に提供した。
西荻	区広報紙、図書館ホームページへの掲載とおたよりの発行を行う。	区広報紙、図書館ホームページのほか、地域の子育てネットワークニュースや地域区民センター広報誌に記事を掲載した。
阿佐谷	地域の施設や商店に事業のチラシ配布の協力を仰ぐ。	図書館で行うイベントのチラシを近隣の小学校で配布してもらい、集客に繋げた。
南荻窪	おたよりの内容見直しと充実を図り、広報を強化する。	一般向け、児童向け、ヤングアダルト向けのおたよりに一部刷新を図り、より手に取りやすく読みやすい紙面にした。
下井草	図書館だより 4 種の充実を図り、定期的に発行していく。	4 種の図書館だよりを継続して発行し、内容も趣向をこらして読み物としても楽しめる構成を維持した。
高井戸	Twitter (ツイッター) による図書館情報の発信を行う。	ほぼ毎日、展示の紹介や行事案内などの情報発信をすることができた。フォロワー (登録者) も徐々に増えて、広報としての効果も高まっている。
方南	読みやすく内容のわかりやすい発行物を作成するとともに、配布方法の見直しを実施する。	図書館だよりを一般・児童向けは毎月発行、青少年向けは年2回発行し、構成を見直して読みやすくした。配布物コーナーを見直し、内容にあわせて表示をつけて設置することで見やすくした。
今川	館内での新たな広報・情報発信をする。	「読み聞かせのおすすめ本」(ブックリスト) と「おはなし会で読んだ本」の展示を継続して実施した。また、「YA 掲示板」を新設し、おすすめ本の紹介やリクエスト等の情報交換を図ることにより、YA 世代への広報活動に努めた。



	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	利用者に興味を持ってもらえるような内容に改善を行い、アクセシビリティに配慮して情報格差が生じないような発信方法や記載方法について検討をする。	B
永福	おたより発行後、近隣施設へ配布を継続し、より図書館事業の周知に努める。	B
柿木	柿木図書館のイメージキャラクターである「かき丸」を活用して、近隣児童による柿木図書館の利用促進を図る。	B
高円寺	事業の実施準備をする中で図書館ホームページへの掲載依頼が遅れがちで、掲載期間が短くなってしまうことがある。	B
宮前	Twitterは継続して発信することが重要である。発信すべき情報をいくつも用意し、様々な発信方法を模索することで、今後の情報発信が容易となる。そのための準備は必須であるが、Twitterでの発信を行っているということ自体をPRすることも必要である。	A
成田	児童館や他の図書館や商店など、外部にもチラシ配布等依頼する。	A
西荻	図書館事業のPRは、区広報紙・図書館ホームページへの掲載・チラシの配布を継続して行っていく。また、YA世代にPRしていくために、おたよりの内容を充実していく。	B
阿佐谷	小学校以外にも、中学校や地域の商店との連携を目指す。	C
南荻窪	より手に取り易く、興味を持ってもらえる紙面作りの構成に努める。近隣連携をより強くするとともに、未利用者への周知拡大に取り組む。	A
下井草	図書館だよりは情報発信ツールであり、図書館に関する情報を提供していく。	B
高井戸	展示の紹介や行事案内の投稿が多かったため、図書館により興味・関心を持ってもらえるような、投稿ができるように工夫をする。	A
方南	新規に作成した方南図書館のロゴマークを活用するとともに、情報発信の方法や掲示物の内容を見直す。	B
今川	YA 掲示板を活用する。	B

## <資料3>利用者満足度調査

### 1 アンケート用紙の配布・回収数及び回答者の状況

#### (1) アンケートの配布・回収数

利用者の図書館サービスへの満足度とニーズを把握するため、中学生以上の図書館来館者を対象に各図書館のカウンター及び館内でアンケート用紙を配布、回収した。

調査では、3分野13項目について、満足度を調査した。

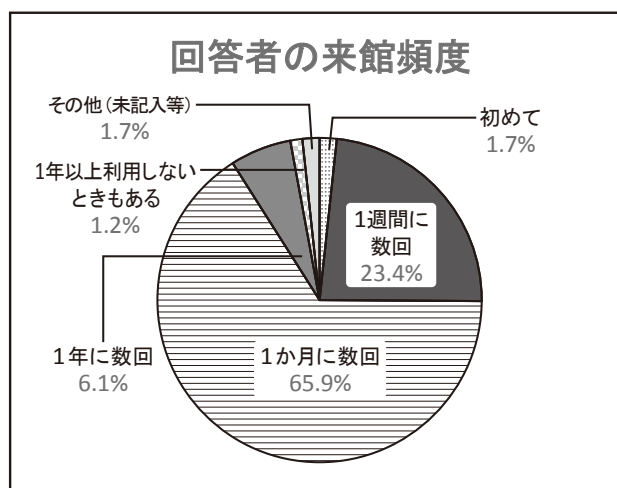
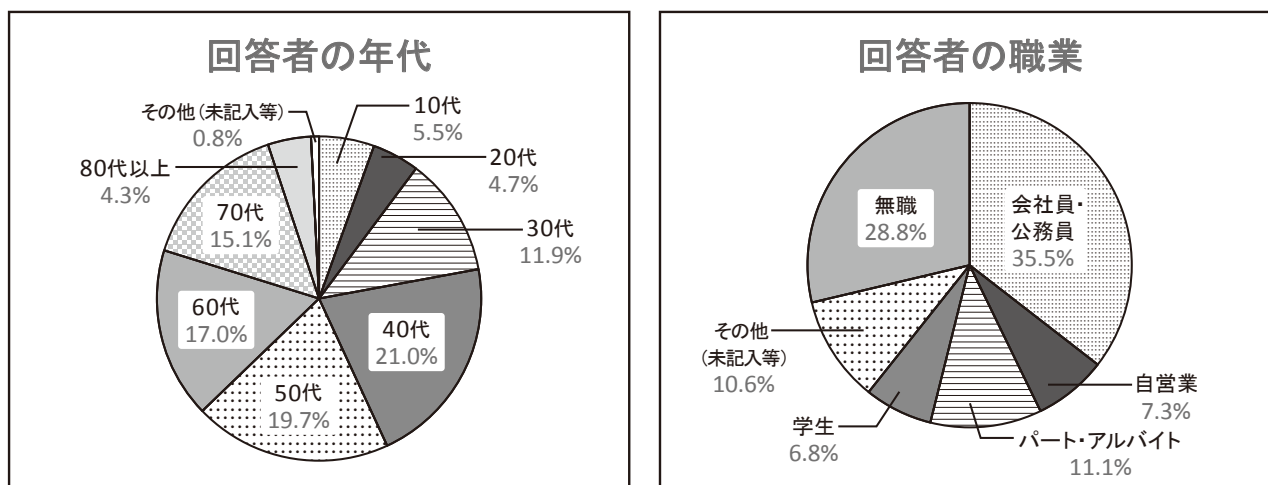
各図書館でのアンケート用紙の配布数は下表のとおりである。

実施年月	配布数	回収数	入館者数	回答率	入館者に対する割合
令和2年10月	4,612枚	3,627枚	27,730人	78.6%	13.1%

#### (2) 回答者の状況

回答者の年代は、多い順から40代21.0%、50代19.7%、60代17.0%、70代15.1%となっているが、10代から30代の若年層は合計でも22.1%と少数になっている。職業は、会社員・公務員が35.5%、続いて無職が28.8%、パート・アルバイトが11.1%、その他(未記入等)が10.6%となっている。両者ともそれぞれの割合は、令和元年度とほぼ同じである。

また、来館頻度については、1か月に数回が65.9%、1週間に数回が23.4%となっており、合わせると全体の89.3%であった。この割合も前回とほぼ同じである。



## 2 アンケート調査項目

アンケート項目は、以下のとおりである。

①図書館の職員について	1. 職員の対応はいかがですか。(声がかかりやすいかなど)
②図書館の本、新聞、雑誌等の資料について	1. 借りたい本はそろっていますか。
	2. 新聞、雑誌など、閲覧用の資料はそろっていますか。
	3. 書架の状態や資料の状態は満足できますか。
③図書館の施設について	1. 館内施設は利用しやすいですか。(表示のわかりやすさ、清潔さなど)
④図書館のサービスについて	1. 予約・リクエスト
	2. レファレンス(調べもの相談)
	3. 館内展示(資料展示・飾りつけなど)
	4. 行事(講演会・おはなし会など)
	5. 一般書・児童書・雑誌のリユース(再使用)提供
	6. OPAC(利用者用端末機)やWebからの図書等の検索
	7. パソコンの利用について(図書館内設置のインターネット閲覧用パソコン・持込みパソコンによる無線LANの利用など)
	8. 図書館ホームページや図書館発行のおたよりなどの情報発信・PR

### 3 項目別の回答割合

利用者満足度調査の項目について、「満足」と「やや満足」を合計した回答割合をまとめた。

図書館名	職員の対応		借りたい本		新聞・雑誌		書架・資料の状態		館内施設		予約・リクエスト		レファレンス	
	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減
中央	94.2%	0.0	77.2%	-1.2	76.3%	-4.2	83.5%	-0.7	91.5%	<b>2.4</b>	72.1%	-2.9	44.9%	0.0
地域館平均	97.7%	<b>0.2</b>	76.4%	<b>3.0</b>	80.1%	<b>0.3</b>	88.4%	<b>0.5</b>	94.2%	<b>1.4</b>	82.2%	<b>6.4</b>	42.1%	<b>0.4</b>
永福	98.7%	<b>2.5</b>	69.4%	-2.6	80.9%	<b>9.3</b>	88.9%	<b>3.7</b>	86.0%	<b>4.1</b>	80.8%	-0.2	44.2%	<b>6.3</b>
柿木	95.4%	-1.3	75.0%	<b>5.8</b>	82.7%	<b>2.9</b>	85.6%	<b>0.4</b>	90.1%	<b>1.9</b>	81.5%	<b>5.5</b>	41.2%	<b>3.3</b>
高円寺	93.3%	-1.5	72.6%	<b>10.3</b>	72.7%	-2.2	81.2%	-0.5	91.0%	<b>3.0</b>	79.3%	<b>8.2</b>	40.3%	-2.6
宮前	100.0%	<b>1.3</b>	82.9%	<b>1.0</b>	83.6%	<b>2.6</b>	90.6%	<b>1.0</b>	96.3%	<b>0.8</b>	87.7%	<b>8.5</b>	44.1%	-0.1
成田	99.1%	<b>1.9</b>	74.1%	<b>4.6</b>	83.2%	<b>5.2</b>	90.5%	<b>8.9</b>	94.4%	<b>2.9</b>	78.9%	-0.8	43.6%	<b>7.1</b>
西荻	96.8%	-0.1	73.0%	<b>4.9</b>	76.5%	-5.0	87.5%	<b>2.2</b>	95.7%	<b>3.2</b>	84.1%	<b>4.0</b>	37.6%	<b>0.5</b>
阿佐谷	97.3%	<b>0.6</b>	77.8%	<b>7.2</b>	77.8%	<b>1.9</b>	84.9%	-2.2	92.6%	<b>0.1</b>	84.6%	<b>18.8</b>	41.6%	-1.3
南荻窪	97.7%	-1.0	77.9%	<b>2.4</b>	79.0%	<b>0.3</b>	89.3%	<b>0.6</b>	96.6%	<b>1.6</b>	83.3%	<b>7.1</b>	47.2%	<b>7.4</b>
下井草	99.3%	<b>0.5</b>	77.0%	-0.6	76.0%	-9.1	87.6%	-6.2	94.2%	-2.1	81.2%	<b>2.9</b>	38.9%	<b>0.4</b>
高井戸	97.9%	<b>0.1</b>	81.1%	<b>6.5</b>	81.1%	<b>0.7</b>	92.2%	<b>2.2</b>	96.1%	<b>0.7</b>	83.0%	<b>4.2</b>	43.0%	-2.5
方南	98.9%	-0.7	77.1%	-5.6	85.6%	-0.7	93.3%	<b>0.2</b>	99.3%	<b>1.1</b>	77.3%	<b>6.3</b>	42.3%	-4.5
今川	97.6%	-1.8	76.5%	-4.6	81.4%	-4.4	87.9%	-6.0	96.8%	-2.5	82.7%	<b>5.4</b>	41.8%	-9.3

図書館名	館内表示 (資料展示・飾りつけ等)		行事 (講演会・おはなし会等)		リユース		OPAC		パソコン利用		情報発信・PR	
	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減
中央	75.1%	-3.2	34.0%	-11.2	47.1%	-5.1	68.4%	-3.9	54.3%	-1.2	58.7%	-1.7
地域館平均	77.2%	<b>0.9</b>	40.8%	<b>0.4</b>	53.0%	<b>0.6</b>	71.8%	<b>4.0</b>	40.4%	<b>3.0</b>	61.7%	<b>3.8</b>
永福	73.9%	<b>5.1</b>	42.7%	<b>8.5</b>	53.7%	<b>6.8</b>	69.1%	-0.2	35.7%	-2.6	61.9%	<b>1.4</b>
柿木	76.5%	<b>10.4</b>	38.0%	-1.0	53.7%	<b>5.2</b>	69.2%	<b>4.9</b>	40.7%	<b>5.8</b>	56.6%	-1.1
高円寺	69.9%	-9.6	37.6%	-0.1	49.5%	<b>2.2</b>	71.0%	<b>2.0</b>	39.6%	<b>10.3</b>	62.0%	<b>6.6</b>
宮前	83.7%	<b>2.4</b>	45.3%	<b>1.1</b>	57.3%	<b>0.7</b>	77.8%	<b>4.1</b>	42.6%	<b>1.0</b>	65.3%	<b>4.4</b>
成田	77.7%	-3.4	40.4%	<b>0.8</b>	55.8%	<b>1.7</b>	69.1%	-2.2	33.2%	<b>4.6</b>	61.7%	-1.0
西荻	71.8%	-3.5	33.8%	<b>0.6</b>	42.5%	-2.0	69.9%	<b>2.4</b>	39.0%	<b>4.9</b>	61.0%	<b>4.1</b>
阿佐谷	77.2%	<b>1.6</b>	41.9%	<b>2.0</b>	55.3%	<b>1.6</b>	67.3%	<b>6.8</b>	37.7%	<b>7.2</b>	61.3%	<b>9.2</b>
南荻窪	74.9%	-1.0	43.3%	<b>8.2</b>	53.6%	<b>3.3</b>	78.0%	<b>10.3</b>	46.6%	<b>2.4</b>	66.5%	<b>6.1</b>
下井草	79.5%	<b>6.8</b>	41.3%	<b>2.1</b>	57.6%	-0.2	69.5%	<b>1.8</b>	45.2%	-0.6	64.2%	<b>6.4</b>
高井戸	77.7%	<b>0.7</b>	41.4%	-4.3	48.9%	-5.5	69.4%	<b>0.2</b>	40.4%	<b>6.5</b>	57.0%	<b>0.0</b>
方南	79.3%	-5.5	40.2%	-9.4	55.4%	-7.8	74.5%	<b>5.0</b>	39.1%	-5.6	64.3%	<b>5.6</b>
今川	81.8%	<b>1.5</b>	43.3%	-6.4	50.9%	-1.7	76.6%	<b>6.8</b>	44.1%	-4.6	58.1%	-4.2

※前年度比で増加した数値を太字・網掛けで表示している。

#### 4 アンケート調査項目に対する自由意見

アンケート回収数 3,627 枚に対して、自由意見記入欄に回答のあった枚数は 1,081 枚（回答率 29.8%）であった。1つの自由意見の中に複数の内容に関する記入があった場合は、それぞれ1件として計上した。このため、自由意見記入欄の回答枚数と意見数とは一致しない。

なお、寄せられた自由意見については各館の運営の参考としている。

##### 自由意見記入欄に回答のあった意見数

内 訳		件数	割合	肯定的意見	要望等	その他	
設問に関連する意見	①職員に関すること	133	9.9%	90	39	4	
	②図書館の本、新聞、雑誌等の資料について	図書・視聴覚に関すること	220	16.4%	19	196	5
		新聞・雑誌に関すること	27	2.0%	2	25	0
		書架・資料の状態に関すること	57	4.2%	5	52	0
		②小計	304	22.6%	26	273	5
	③図書館の施設について	147	10.9%	52	94	1	
	④図書館のサービスについて	予約・リクエストに関すること	137	8.0%	41	93	3
		レファレンスに関すること	2	0.1%	0	2	0
		展示に関すること	25	1.9%	20	4	1
		行事（講演会等）に関すること	35	2.6%	18	17	0
		リユースに関すること	9	0.7%	2	7	0
		OPAC・Webでの検索に関すること	73	5.4%	3	68	2
		パソコン利用に関すること	31	2.3%	2	28	1
		情報発信・PRに関すること	7	0.5%	1	6	0
		④小計	319	23.7%	139	319	8
①～④小計	903	67.2%					
設問に関連していない意見	⑤図書館運営に関すること	38	2.8%				
	⑥図書館利用に関すること	105	7.8%				
	⑦図書館利用者に関すること	56	4.2%				
	⑧図書館システムに関すること	41	3.1%				
	⑨感謝	183	15.9%				
	⑩アンケートに関すること	8	0.6%				
	⑪その他	10	0.7%				
	⑤～⑪小計	441	32.8%				
自由意見記入欄 合計	1,344	100.0%					











## 〇〇図書館利用者満足度調査

このアンケート(利用者満足度調査)は、より良い図書館サービスの提供や図書館運営を行うため、皆様のご意見を反映させるためのものです。ご協力をお願いします。

〇以下の項目は、該当する番号を「〇」で囲んでください。

年代	① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上
来館頻度	① 初めて ② 1週間に数回 ③ 1か月に数回 ④ 1年に数回 ⑤ 1年以上利用しない時もある
職業	① 会社員・公務員 ② 自営業 ③ パート・アルバイト ④ 学生 ⑤ その他 ⑥ 無職

### ① 図書館の職員について

項目	満足度 (該当するものを「〇」で囲んでください)			
1 職員の対応はいかがですか。(声がかかりやすいか、説明はわかりやすいかなど)	満足	やや満足	やや不満	不満

### ② 図書館の本、新聞、雑誌等の資料について

項目	満足度 (該当するものを「〇」で囲んでください)			
1 借りたい本は、そろっていますか。	満足	やや満足	やや不満	不満
2 新聞、雑誌など、閲覧用の資料はそろっていますか。	満足	やや満足	やや不満	不満
3 書架の状態や資料の状態は満足できますか。	満足	やや満足	やや不満	不満

### ③ 図書館の施設について

項目	満足度 (該当するものを「〇」で囲んでください)			
1 館内施設は利用しやすいですか(表示のわかりやすさ、清潔さなど)	満足	やや満足	やや不満	不満

### ④ 図書館のサービスについて

杉並区立図書館で実施しているサービスについておたずねします。次の1から8の各サービスについて、それぞれ該当する箇所に「〇」を1つ記入してください。

項目	該当する箇所に「〇」を1つ記入してください						
1 予約・リクエスト	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
2 レファレンス(調べもの相談)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
3 館内展示(資料展示・飾りつけなど)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
4 行事(講演会・おはなし会など)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
5 一般書・児童書・雑誌のリユース(再使用)提供	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
6 OPAC(利用者用端末機)やWebからの図書等の検索	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
7 パソコン利用について(図書館内設置のインターネット閲覧用パソコン・持込みパソコンによる無線LANの利用など)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
8 図書館ホームページや図書館発行のおたよりなどの情報発信・PR	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	

●その他お気づきのことやご意見がございましたら、以下にご記入ください。

【自由意見記入欄】
-----------

ご協力ありがとうございました。

## ＜資料 4＞ 杉並区立図書館サービス基本方針

### I 図書館サービス基本方針の策定について

#### 1 策定の背景・趣旨

今、図書館を取り巻く状況は、電子書籍や音楽配信サービスの普及など情報化の急激な進展、団塊世代の本格的な地域還流、若者世代の活字離れ、地域における知的活動意欲の高まりなど大きく変化してきています。図書館には、これらの変化への的確な対応が求められています。

また、杉並区では今年度、全小中学校に学校司書を配置しましたが、これまで以上に「調べ学習」への対応の充実など、図書館と学校との連携・協力を図ることが重要となっています。

杉並区では、これまで「区民の書齋」である図書館として、全国トップクラスの230万冊におよぶ蔵書の充実をはじめ、他自治体に先駆けてのブックスタート事業や「子ども読書活動推進計画」の策定・推進に取り組んできました。また、運営面では、図書館協議会への公募区民の参画や、指定管理者制度の導入、経営評価の実施など、時代の流れに応じた取組を進めてきました。

しかし、今後、時代のニーズを的確に反映し図書館サービスの向上を図るためには、新たに中長期的視点から杉並区の目指すべき図書館像を明らかにする必要があるとの認識から、このたび「杉並区立図書館サービス基本方針」を策定しました。

この基本方針は、学識経験者・区民・関係団体代表者等で構成された図書館協議会に諮り、6回にわたる幅広く熱心な議論を経てまとめられた原案をもとに策定したものであり、今後10年間の図書館の羅針盤として、望ましい図書館サービスのあり方と、その実現に向けての取組の方向性を明らかにするものです。

#### 2 位置付け

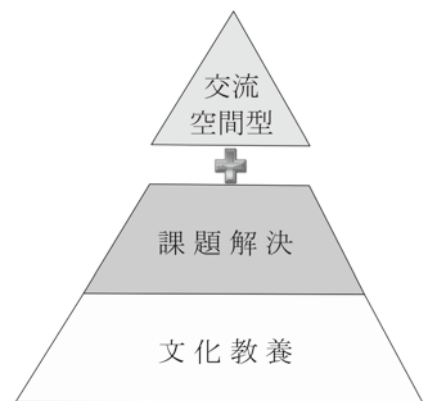
「杉並区立図書館サービス基本方針」は、杉並区基本構想(10年ビジョン)、杉並区総合計画(10年プラン)・実行計画(3年プログラム)、杉並区教育ビジョン2012・教育ビジョン2012推進計画を踏まえるとともに、「子ども読書活動推進計画」との連携を図り策定しています。

### II 10年後の図書館像

#### 図書館は進化する ～学びの場・知の共同体・楽しい交流空間へ～

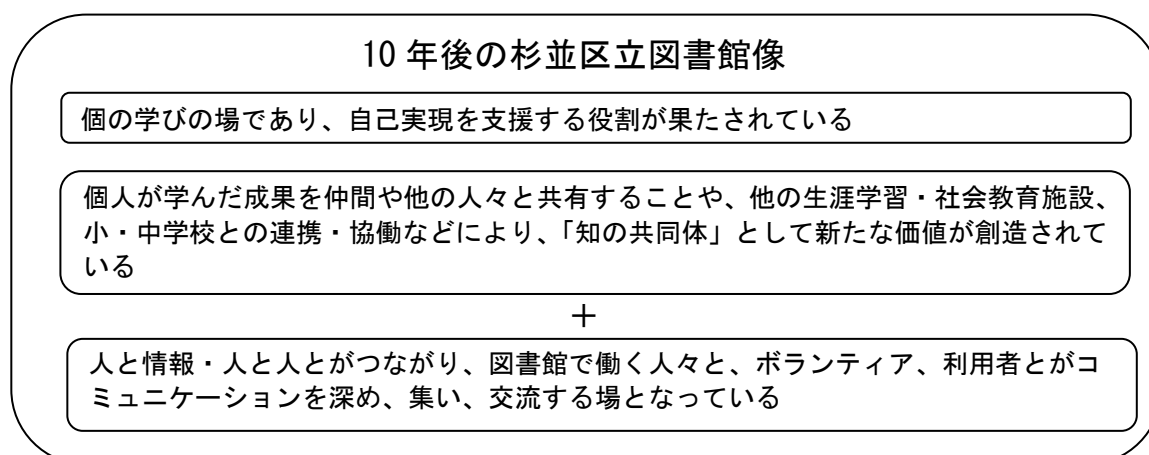
これまで図書館は、資料を収集し、その資料が生涯学習や調査研究、趣味・娯楽などの様々な目的に活用される、いわゆる文化教養型施設としての役割を担ってきました。近年は、さらに個人や地域における課題解決に役立つための役割が重視されるようになり、レファレンスサービス\*の充実やデータベースの活用などの取組を進めてきました。

今後はさらに、様々な区民が気軽に集い交流するとともに、各々の能力や関心に応じて、互いに連携・協力しあう交流空間としての役割が求められています。



\*情報を求める人に必要な資料の調べ方を案内すること、必要な資料・情報を提供すること

このような時代の流れや図書館の進化を踏まえ、これからの10年に臨む基本的姿勢として、次のような図書館像を描いています。



### Ⅲ 3つの視点と取組の方向

#### 1 「学びの場」としての図書館 ～学び・自己実現を支援します～

図書館は、区民の皆さんの学びや自己実現を支援する場であり、知りたい情報にいつでもアクセスできる「地域の学びの場」としての役割を担っていきます。

##### 【10年後の姿】

- ニーズに応じた多様な資料が揃い、誰もが利用しやすい環境が整っています。
- 情報通信技術を活用し、誰もがどこからでも図書館の資料を活用しています。
- 図書館への来館が困難な方でも、貸出などのサービスを受けることができるようになっています。

##### 【取組の方向】

- 図書館には約230万冊もの膨大な資料があります。また、誰でも使えるインターネット環境や有料データベースなど、図書資料のみならず多様な情報へのアクセス手段が用意されています。図書館の基本的な機能としては、これからも「知りたいことが図書館に行けばわかる」という情報集積の拠点として、資料を収集し、利用者が活用しやすいように整理したうえで提供していきます。
- もとより、図書館に、趣味や娯楽のための本や映画など、いわゆるエンターテインメントに関する資料を求めてくる人も多くいます。特に、団塊世代が65歳を迎え、本格的に地域に戻ってきつつあり、図書館を活用して新たな活動に取り組んだり、余暇を楽しんだりする機会が増えてくることが考えられます。こうした人たちに、図書館の良さを理解していただくためにも、資料の充実や適切な情報収集に努めていきます。
- 急速な情報通信技術の進展に対応して、音楽配信サービスや電子書籍の導入、ソーシャル・ネットワーキング・サービス<sup>※1</sup>等の活用の検討など、電子図書館としての機能を充実させていきます。これにより、時間や場所に拘束されずに図書館が持つ情報と情報ネットワークを利用することが可能となり、利便性の向上が図られます。一方で、電子情報へのアクセスが困難ないわゆるIT弱者は、現在入手できる情報量が圧倒的に少なくなっています。そうした区民のためにも、図書館という場を活用して、情報リテラシー<sup>※2</sup>の向上に取り組めます。

※1 インターネットを使って、特定の関心をもつ人同士が会おうチャンスをつくり、情報交換ができるようにするサービスの総称。略称 SNS

※2 情報機器を利用して、膨大な情報の中から必要な情報を抜き出し、活用する能力のこと

- 図書館への来館が困難な方であっても図書館サービスを受けることができるよう、病院・施設への団体貸出や宅配サービスなど、様々な方法を検討していきます。

## 2 「知の共同体」としての図書館 ～情報の共有と活用を進めます～

区民の皆さんが自ら学び、新たに身に付けた知識や技能を、図書館を媒介にして共有し、活用していくことで、地域社会に還元できるような環境を整えていきます。

### 【10年後の姿】

- 個人の学びの成果を、仲間や他の利用者と共有する場＝「知の共同体」として、図書館が機能しています。
- 区内の様々な団体との協働により、図書館で多様な事業が行われています。
- 杉並にゆかりのある人物の本や、杉並に関する歴史や地誌、地場産業や固有の文化など、「杉並」に関する資料が蓄積され、多くの人に利用されています。

### 【取組の方向】

- 図書館には多くの情報があり、それを求めてやってきた人たちが、自らの課題解決や自己実現のために活用しています。こうした人たちの学習成果や、地域の人たちが持っている技能・アイデア・能力などを発揮できる環境を「知のインフラ(基盤)」として蓄積・共有化し、地域社会に還元できるようにしていきます。
- 外部の人材や専門家を活用した講座や講演会の実施を通じて、受講者のスキルアップを支援していくとともに、そこでの学びの成果を地域社会に還元していくために、受講者同士の情報共有の場を提供するなど、新たな図書館の活用を考えていきます。
- 多くの区民が利用する図書館には、資料だけではなく、それぞれの区民や団体が持つ多くの知識や経験が集まっています。図書館は、こうした知識などを若い世代に伝えていき、その世代がやがて大人になったときに、さらに若い世代に伝えていくような、「知の循環」の中核として、また、就学前教育から学校教育、生涯学習への切れ目ない連携の中心となる施設としての役割を担っていきます。
- 杉並に関する文化的資料の蓄積は、公立図書館だからこそ取り組まなければならない課題です。こうした情報の収集も、地域の人々の協力なくしては成り立ちません。図書館の使命として、歴史的資料のみならず、現在、そして将来的に必要であろうと考えられる資料を、地域の人々と一緒になって、積極的に保存・伝承していきます。

## 3 「楽しい交流空間」としての図書館 ～区民と共に成長します～

図書館は、誰もが気軽に集え、交流できる場として、区民とともに成長・進化し続けていきます。

### 【10年後の姿】

- 多くの区民が、図書館の様々な取組や活動に連携・協力し、「区民が主体的に参画する」図書館が実現しています。
- 区民等との積極的な協働により、障害者や高齢者・子ども向けの多様なサービスが充実しています。
- 従来の「静かで落ち着く空間」としての図書館を基本としつつ、「明るく楽しく人が集う空間」としても図書館が活用されています。
- 施設・設備がユニバーサルデザイン※化され、誰もが気軽に図書館を訪れることができるようになっています。

※年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること

## 【取組の方向】

- 図書館には、多くの人が訪れています。平成23年度の区民意向調査では、約4割の区民が、年に1回以上図書館を利用していると答えています。  
このように多くの区民に利用されている図書館は、積極的に利用者の声に耳を傾けるとともに、図書館のモニターを募ってその意見を運営に反映させ、協力を受け、さらには一緒になって図書館をより良くしていくことにより、「区民が楽しみ、区民が主体的に参画する図書館」に変わっていく必要があります。全ての区民が「図書館に行ってみたい」と思えるような魅力的なサービスを提供し、「図書館に行けば何かある」、「図書館に行けば抱えている問題が解決できる」と思える、知的好奇心をくすぐるような楽しい空間を創っていきます。
- 講演会や講座、ワークショップなどを開催することにより、区民の興味・関心の幅を広げる機会や発表の場を提供する中で、同じ興味や関心を持った人たちの交流の場としての図書館の役割を広げていきます。
- これまでも図書館は、ボランティアの協力を得て、障害者サービスや子どもたちへの読み聞かせなど、様々な事業を行ってきました。こうした取組は、今後もさらに継続・発展させていく必要があります。そのためには、今後もボランティアとの協働による多様なサービスの提供と、それを支える人材育成が欠かせないものとなっています。高齢者や障害者のサービスを充実させていくためにも、ボランティアのみならず様々な面で図書館を支援してくれる人たちとの協働を進めていきます。
- 幅広い層の区民が気軽に集え、交流できる場になるためには、「集い、活動したくなる空間」になる必要があります。そのため、静かで落ち着いた雰囲気だけにとどまらず、会話を楽しめたり飲食ができたりするスペースの確保など、明るく楽しい雰囲気も作っていきます。
- 誰もが利用しやすい図書館となるためには、施設・設備のユニバーサルデザイン化や省エネルギー化など、設備の充実も欠かせません。誰もが使いやすい図書館になるよう、施設・設備を充実していきます。

## IV 取組推進のための基盤整備

### 1 関係機関とのコラボレーション（協働）

図書館は、生涯学習施設に位置付けられていますが、区内には他にも社会教育センター、郷土博物館、科学館など、多様な社会教育・生涯学習施設があり、こうした施設との連携も欠かせません。

また、区内大学図書館との連携も重要なものとなっています。各種資料やプログラム、PRの連携など、積極的にコラボレーションすることにより、さらに高いレベルのサービスを提供していきます。

また、平成24年度には、区内全ての小・中学校に学校司書が配置されました。学校司書は、小・中学校の図書館での蔵書管理や、児童・生徒へのサービス、教員への授業支援などをする専門スタッフで、区立図書館などの関係機関と学校をつなぐ存在としての役割も期待されています。図書館は、積極的に学校図書館を支援するとともに、学校司書との連携により、学校教育における読書活動への支援を強化していきます。

こうした連携を重視した取組を進めることにより、将来的には、基本構想や教育ビジョンにも掲げる、「生涯にわたる切れ目のない支援」の実現を目指します。

## 2 専門家の育成・活用

区民のニーズに応えるためには、図書館運営に関わる全ての職員がそれぞれの担当分野において「専門家」となることが必要です。

まず、司書の資格を持つ職員のレファレンス能力を向上させることにより、利用者のニーズに的確に応えていきます。また、図書館にとっては、どのような資料が用意されているかが、とても重要です。そのため、職員のスキルアップに取り組み、選書能力の強化を図ります。

さらに、施設管理や情報化、サービス全般についても、それぞれの担当者がプロフェッショナルとしての自分の役割を認識した上で、より良い図書館運営のための取組を進めていきます。

また、図書館同士がお互いのサービス内容を理解し、他の図書館が実施する良いサービスを見習うなど、図書館全体としてより良いサービスが提供できるような取組を進めていきます。

さらに、外部の学識経験者など専門職の協力により、その知識・経験や技術をサービスの拡大に活用していきます。

## 3 積極的な広報・PR活動

図書館は多くの区民に利用されていますが、それでもまだ5割以上の区民が図書館を利用したことがないという状況にあります。「本は自分で買う」や「近くに図書館が無い(場所を知らない)」という声があるほか、様々な催しや企画展を行っているにもかかわらず、図書館からの発信や働きかけが足りず、行事などに関する情報があまり知られていない、などの指摘も受けます。

本来の図書館の機能や、将来像についてはこれまでも述べてきましたが、それらを区民と共有し、図書館の活性化を図るためには広報活動も重要です。これまでも「広報すぎなみ」や区の公式ホームページ、図書館ホームページなどで広く広報活動を行ってきましたが、これからは、さらに一歩進んで、利用する価値のある施設だということを理解していただけるように、未利用者への働きかけなども含めて、積極的な情報発信を継続的に行っていきます。

## V 目標の実現に向けて

今後、図書館は、図書館サービス基本方針に掲げる図書館像の実現を図るため、具体的な取組事業について検討するとともに、これらをもとに各年度における事業の進行状況や到達度について、新たな仕組みによる図書館経営評価を行うことにより、PDCAサイクルに則った計画的な事業の推進を図ります。

また、図書館の持つ機能や可能性をより発揮していくためには、行政や事業者だけの力では十分ではありません。「学びの場・知の共同体・楽しい交流空間」を実現する図書館の担い手として、図書館の利用者をはじめ図書館を利用したことがない方々を含めて、より多くの区民の方に主体的に参加していただくことにより、目標の実現を図っていきます。

# 杉並区立図書館運営状況報告書 令和2年度

登録印刷物番号

02-0087

令和3年2月発行

編集・発行

杉並区立中央図書館

〒167-0051 杉並区荻窪三丁目40番23号

電話 03-3391-5754

\* 杉並区及び杉並区立図書館の各ホームページでご覧になれます。

杉並区ホームページ <https://www.city.suginami.tokyo.jp>

杉並区立図書館ホームページ <https://www.library.city.suginami.tokyo.jp>